

訪問リハビリテーション従事者のための

人材育成ガイドライン

第1版



公益社団法人 日本理学療法士協会

一般社団法人 日本作業療法士協会

一般社団法人 日本言語聴覚士協会

在宅医療を支える訪問リハビリテーション

(一財) 訪問リハビリテーション振興財団
理事長 半田 一登

2025年を目途とした地域包括ケアシステムでは、在宅医療の推進を大きな柱としています。平成25年8月に出された社会保障改革国民会議の報告書では、「介護ニーズと医療ニーズを併せ持つ高齢者を地域で確実に支えていくためには、訪問診療、訪問口腔ケア、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導などの在宅医療が不可欠である。」とされています。このような公的文書で「訪問リハビリテーション」が明記されたのは初めてのことで、これまでは訪問看護に含まれるという解釈で推移してきました。我々にとっては非常に重要な出来事です。また、この報告書では、「病院完結型から地域完結型へ」「医療から介護へ」「病院・施設から地域・在宅へ」「治す医療から治して支える医療へ」「QOLからQODへ」等、数々の象徴的なフレーズが並んでいますが、どのフレーズにしても在宅医療を推進する方向性を指示しています。

さて、本財団では福島県の「浜通り訪問リハビリステーション」と岩手県の「宮古・山田訪問リハビリステーションゆずる」を運営しており、今年度中には宮城県気仙沼に新しいステーションを創立する予定となっています。これまでに活動を行ってきました二つのステーション共に、地域の病院や医師会、そして介護支援専門員等からの厚い信頼を得ることができ、対象者の数は右肩上がりです。これもスタッフの方々の知識及び技術だけではなく、マナーや人柄までもが認められた成果と考えています。

一方、訪問リハビリテーションに従事する理学療法士や作業療法士、そして言語聴覚士の質に対する疑問の声を聴く機会が増えています。この声が社会的に充満するようなことになれば、訪問リハビリテーションの行く末は決定的な状況となってしまいます。社会的な期待が大きいうちに期待に応えるための努力をしなければなりません。

現在、医療・介護は地域包括ケアシステムという名の下に、非常に流動的になっています。この時期は大きなチャンスであると共にピンチになります。それを決定的にするのは、その業務が社会的ニーズに応えているかいないかです。質の高い訪問リハビリテーションを確立するためには、質の高い訪問リハビリテーション従事者を育てなければなりません。研修会参加者の一層の努力を心より期待しております。

ガイドライン作成にあたって

(一財) 訪問リハビリテーション振興財団
研修班 班長 露木 昭彰

我々、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の大半は、これまで医療機関での業務に従事してきた。我が国の人口動態、社会情勢、そして生活形態の変化から活動するフィールドは医療施設に留まることなく、あらゆる場面へと領域が拡大し、深まってきた。医療におけるリハビリテーションは ICDH の概念により発展し、我々はその中で医療職としてのプライドとキャリアを形成してきた。そして ICF の概念が構築されてから既に 10 年以上が経過している現在、訪問リハビリテーションはこの変化に応じることが、未だかなわず、アプローチは ICDH に固執している。

訪問リハビリテーションは、介護保険制度が始まってから飛躍的に利用量と認識が増し、今後更に国民からの要望は拡大していくであろう。3 協会としてこれまで、従事者の育成を積極的に推進してきたことにより、未だ不十分でありながらも一定の供給量は提供できつつある。しかし、今後の国民の生活を保全するためには、更なる供給量の増大、質の担保を推し進めて行き、日本全国どこで暮らしていても、国民ニーズに答えることのできる訪問リハビリテーションサービスとして昇華させていかなければならない。訪問リハビリテーションを導入することで在宅生活を送りやすくなり、必須のサービスと位置づけられるため、3 協会は訪問リハビリテーションに特化した活動を協働的に開始したのである。

国が超高齢化社会対策として敷いた地域包括ケアシステム、地域完結型医療介護システムにより、誰もが住みやすい地域環境を整備するため、訪問リハビリテーションを提供する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が何を学び、身につけていく必要があるのかをこのガイドラインに込めた。先達の皆さまが実践してきたことを踏まえ、未来を見据え、構成した。

3 協会それぞれからメンバーを集結させ、取り掛かりから 1 年半の期間をかけ、この度、本ガイドラインにまとめることが出来た。本ガイドラインは、訪問リハビリテーション従事者が今後歩んでいく道程の基点となり、変化し続ける社会に常に適合でき、在宅生活を牽引する人材育成の指針となることを望む。

最後に、本ガイドラインの作成に関わっていただいた多くの方々に感謝を申し上げ、みなさまの熱い思いが込められたこのガイドラインを全国の訪問リハビリテーション従事者に贈る。

目次

訪問リハビリテーション従事者のための 人材育成ガイドライン

在宅医療を支える訪問リハビリテーション

半田 一登（一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 理事長）

ガイドライン作成にあたって

露木 昭彰（一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 研修班 班長）

第1章	2025年の訪問リハビリテーション従事者のあるべき姿……………	4
	松井 一人（一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 理事）	
第2章	ガイドラインの使用方法……………	7
第3章	研修会体系について……………	8
第4章	カリキュラムフレーム……………	11
第5章	シラバス……………	15
第6章	実務者研修会の受講証の発行について……………	63
第7章	実務者研修会の履修に関する緩和対応……………	65
第8章	参考資料	
	資料① 受講証	
	資料② 受講証明書	
	資料③ 履修確認票	
	資料④ アンケート用紙	
	資料⑤ 研修会実施報告書	
	資料⑥ 災害・緊急時の研修開催の判断	
	資料⑦ 3協会と訪問リハビリテーション振興財団の関係図	

一第1章一 2025年の訪問リハビリテーション従事者のあるべき姿

(一財) 訪問リハビリテーション振興財団
理事 松井 一人

1. 訪問リハビリテーションを取り巻く背景

我が国の少子高齢化は、これまで世界のどの国も経験がないほどのスピードで進展している。同時に、高齢者の単身世帯や、高齢者のみの世帯の増加など、地域社会を取り巻く環境も大きく変化し、世帯や家族の在り方も様相が大きく変化している。

過去、国民が看取られる場所は、自宅がほとんどであったが、1975年くらいを境に、看取られる場所にも変化が起こり、現在、国民の80%が医療機関で看取られており、自宅で最期を迎える率はわずか10数パーセントに留まっている。一方、我が国における死亡原因疾患の推移では、悪性新生物や循環器疾患、肺炎等が増加しており、対象となる疾病や障害像も変化している。このような背景を下に、リハビリテーションの対象者やそれを提供する場所も大きく変化が求められる。

今後、我が国の団塊の世代が後期高齢者入りする2025年をターゲットに、地域包括ケアシステムの構築を目指しているが、これまでの病院完結型医療から、地域完結型医療への転換を促さざるを得ず、その仕組みの在り方と、訪問リハビリテーションの在るべき姿とは、大きくリンクしなければならない。

2. 地域包括ケアシステム構築と訪問リハビリテーション

今後、継続可能な社会保障体制の構築を考えたとき、効果的・効率的な医療の提供体制の整備が求められる。医療機関では、在院日数をいかにスムーズに短縮し、良き状態で在宅等に患者を返す事が大きな目標となる。一方、これまで訪問リハビリテーションでは、医療的側面から状態が安定したフェイズの対象者に対し、生活機能維持向上を目的としたサービス提供が多かったが、今後は、亜急性期から、急性増悪期、更には終末期にわたり幅広い利用者が対象となる。さらに、我が国における死亡原因疾患の推移では、悪性新生物や循環器疾患、肺炎等が増加しており、このような対象疾患に対し、専門的な知識や技術を高め、退院早期から看取りに近いフェイズまで、適正に支援が出来る専門職として機能しなければならない。

地域包括ケアシステムは、「地域包括ケア研究会報告書」で「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために医療や介護のみならず、福祉サービスも含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制」と定義されている。また、地域包括ケアシステムでは、「自助」や「互助」の考え方も広く取り入れられている中で、単にサービスを他動的に提供するのみならず、住民として地域に自律的に適応できる支援も訪問リハビリテーション

の重要な役割となると考える。さらに、この地域での体制は、都市部と地方、市街地と山村部、漁村部等では、まったく事情も違い、地域の実情に合わせた体制の構築が求められ、一様に対応できるものではない。故に、訪問リハビリテーションを担うものは、その地域性を理解した上で業務に当たる事が肝要である。また、背景が複雑になり、状態像が困難化するほど、他機関、多職種との連携が不可欠である。

3. 地域包括ケアを支える人材の役割

地域包括ケアシステムの導入と共に、私たちリハビリテーション専門職が、訪問リハビリテーションで担わなければならない役割も、多様化すると考える。

地域包括ケア研究会の報告書では、以下に述べられている。リハビリテーション専門職は、在宅生活支援の為のリハビリテーションプログラムを作成し、家族および介護職への指導や改善のアセスメントを行っている。PT・OT・ST は、在宅復帰時・施設入所時に要介護者の状態を評価して計画を作成するとともに、困難ケースを中心に、自らリハビリテーションを提供する。一方、日常生活における生活機能の維持・向上の為の支援（機能訓練等）は、PT・OT・ST の策定した計画に基づき、介護福祉士が実施している。

この様に、リハビリテーション専門職は、困難ケースに対し、つまり在院日数が短縮した亜急性期の対象者、急性増悪等で状態が不安定な対象者、終末期に向かう対象者等、疾病や状態像が安定せず、リスクの高い者、難病患者等に対し、直接的にリハビリテーションを実行する。この様なケースが増加する一方、状態が安定し、日常生活における活動量を上げ、残存機能を活かし生活自立度の維持・向上に資する支援や活動については、介護福祉士等や家族と共に情報を共有し、協力体制の中で、対象者を支えていく事が増えると考え。同時に、介護支援専門員に対しても、自立に資するケアを供給できる為のケアプラン作成の過程をリハビリテーションの視点から支援する事が重要になると考える。

4. 2025年の訪問リハビリテーション従事者のあるべき姿

ここまで述べてきたように、訪問リハビリテーションに期待される機能や役割は大きく変化しようとしている。在院日数が短縮する事により、入院機関における情報を素早く入手し、リハビリテーションに関連する内容を中心に、かかりつけ医や、関係機関・職種に報告し共有する事が不可欠である。同時に、亜急性期等の対象者が故に、情報入手より可能な限り早期に、サービス提供がなされ適正な対応を図られなければならない。この事が実現するためにも、介護支援専門員に対し、リハビリテーションの視点からケアプランの作成をサポートする事も重要な役割となる。

訪問リハビリテーションを提供する先も、今後、自宅のみならず居住系施設等にも広がりを見せるであろう。また、ここまでは高齢者を中心の事を述べたが、地域に存在する障害者（児）に対しても、また、予防的観点からの期待にも沿える専門職集団でありたいものである。そして、災害の多い我が国が故に、有事の時に様々な状況に遭遇した際、限られた条件

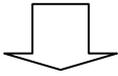
下において適正にフィジカルアセスメント等ができ、専門職として役割を果たし、正しく機能できる専門家でありたい。

これまで、地域での活動ボリュームが決して多いといえなかった、リハビリテーション専門職が、今後地域の中で活動し、一定の成果を上げるためには、この時代の潮流を適正に理解すると共に、あるべき姿を確立する事が急務である。単にリハビリテーション専門職としての知識や技術的側面に偏ることなく、その専門的スキルに立脚し、多職種に評価やそれに基づくアセスメント結果、想定される予後予測、残存機能を活かした介護手法や環境整備の具体的提案等、多岐に渡りその能力を高め機能する事が求められると考える。また、接遇やコミュニケーションスキル等についても、地域社会にて活動する最低限の身なりを身に付け、真に地域に求められる存在でありたい。

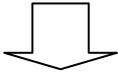
－第2章－ ガイドライン使用方法

本ガイドラインの使用方法を下記に示す。

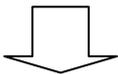
手順1 第3章に掲載する研修会の種類とそれぞれの研修会の関係性について把握する。



手順2 第4章の「カリキュラムフレーム」は訪問リハビリテーション従事者のスキルアップに必要であるとする各研修会の科目を整備したものである。研修会を企画する際に「研修科目」を参考とし、役立てる。



手順3 第5章の「シラバス」では、「研修科目」の詳細を掲載した。研修会を企画する際に「シラバス」を参照し、講師依頼に役立てる。



手順4 第6～8章で実務者研修会の運営方法を確認し、必要な手続きや資料を把握する。

－第3章－ 研修体系について

本ガイドラインが取り扱っているのは下記の訪問リハビリテーションに特化した研修会であり、図1、図2に示される通り各々の研修会を段階的に受講することで、訪問リハビリテーション従事者一個人の養成・育成から、事業所の管理者の養成・育成までを描いている。

第3章ではそれぞれの研修会の概要と研修体系について説明する。

1) 訪問リハビリテーション実務者研修会（初任者・現任者）

訪問リハビリテーションの従事者を育成・養成するための研修会を全国で開催するため、平成22年度に各都道府県から代表者に参集いただき地域リーダー会議¹⁾（当時は「地域リーダー育成研修会」）を開催した。この会議をきっかけに平成22年度以降、各都道府県において毎年、訪問リハビリテーション実務者研修会（名称が異なるものもある）をPT、OT、ST士会の協力のもと開催することとなった。

平成26年度からは訪問リハビリテーション実務者研修会の受講を以って、後述の管理者養成研修会STEP1を受講することが可能となる。また実務者研修会の受講者数を計上し、訪問リハビリテーションに従事している療法士の量的担保と質の確保を示すものとしている。

2) 訪問リハビリテーション管理者養成研修会（旧管理者研修会）

3協会が主催。各士会にて開催された実務者研修会を受講したものに応募資格が与えられる。STEP1～3の3段階の研修会で構成されており、STEP1から順番に受講していく。管理者養成を目的としているため、1つの研修会は3日間の受講期間を要するものになっている。STEP1は毎年複数回、STEP2とSTEP3は毎年1回の開催が予定されている。

3) 訪問リハビリテーション管理者研修会（旧フォローアップ研修会）

3協会が主催。管理者養成研修会を全て受講したものに受講資格が与えられる。管理者としてだけでなく、地域で活躍する訪問リハビリテーション従事者を養成・育成すること、全国におけるネットワークを形成すること、訪問リハビリテーションを生業とした実務及び管理能力を更に向上することを目指した内容となっている。毎年1回の開催を予定。

1) 地域リーダー会議

平成22年度から開催。47都道府県のPT、OT、STの各代表者が参加し、訪問リハビリテーションに関する3協会合同の活動について意見交換、情報交換をおこなう場として開催している。毎年1回東京会場で2日間開催。

訪問リハ研修体系

(H26年度から実施)

実務者研修会 (内容は各県士会による)

初任者研修 未経験者・初任者を対象、訪問リハ入門

現任者研修 訪問リハ従事者が対象、訪問リハスキルアップ

士会主催

受講者

管理者養成研修会 (旧管理者研修)

STEP1 要件:実務者研修会受講者
臨床経験4年以上

修了者

STEP2 要件:STEP1 履修者

修了者

STEP3 要件:STEP2 履修者
3協会 会長名での終了証発行

修了者

3協会主催

管理者研修会 (旧フォローアップ研修)

管理者ネットワーク研修/スキルアップ研修/講師育成研修

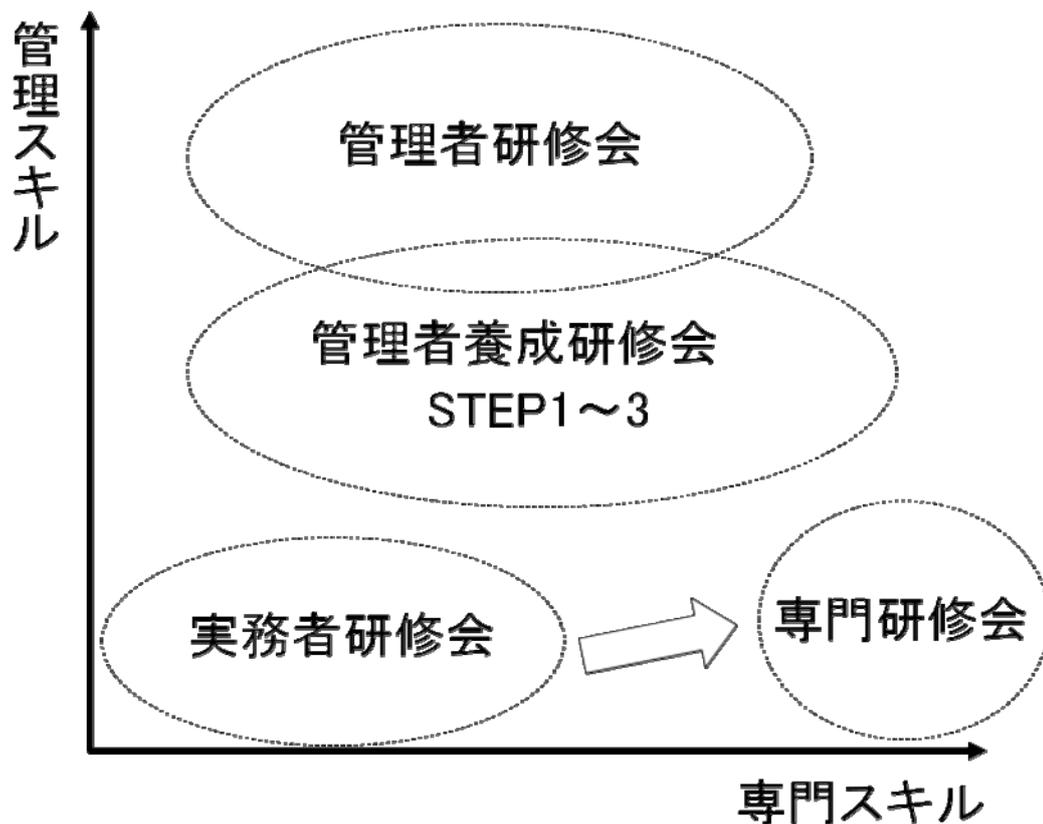
図1 訪問リハ研修体系

訪問リハ研修体系のマトリクス

(H26年度から実施)

3士会、3協会でこれまで開催されてきた実務者研修会、管理者養成研修会、管理者研修会の関係性をより明確なものにし、より質の高い訪問リハサービスの普及促進を図る。

管理スキル: 管理業務に従事する訪問療法士に必要なスキル
専門スキル: 訪問療法士に必要な専門職としてのスキル



より質の高い訪問リハサービスの普及に向けて、管理スキルの向上に軸足を置いた研修事業を推進していく。

図2 訪問リハ研修体系のマトリクス

－第4章－ カリキュラムフレーム

訪問リハビリテーションの人材育成においては、従来の医療的なスキルの向上から生活を支援するスキルまで幅広い学習項目がある。これを設計図なしで学ぼうとすると、偏りができるため、自ずと得手不得手が生まれる。その結果、療法士によって対応できたりできなかったりという質の不均衡が生じるため、業界全体として訪問リハビリテーションサービスの質の向上を促すことが困難になる。このため、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会の3協会、都道府県士会、各訪問事業所、各個人が一定の枠組みを共有しながら、より専門性の高い訪問リハビリテーション従事者を育成していくための「研修会カリキュラムフレーム」を人材育成の原点として作成した。

このカリキュラムフレームは訪問リハビリテーションの人材育成において、全国47都道府県で開催される「訪問リハビリテーション実務者研修会」と3協会が合同で開催する「訪問リハビリテーション管理者養成研修会」および「訪問リハビリテーション管理者研修会」を平成26年度から一体的かつ段階的な研修体系と位置づけ、3協会合同で体系的な人材育成を行うために準備を進めてきた。カリキュラムフレームを見開き2項にまとめることにより研修科目や段階といった全体像をイメージしやすくした。

各都道府県で開催される「訪問リハビリテーション実務者研修会」において、テーマや内容の作り込みで苦慮するという意見が挙げられていたこともあり、企画の際の参考となるようなガイドラインとして作成した。研修科目、研修形態、(コマ数※)、概要やキーワード例を参考に、研修会を計画的に企画・開催することが可能となる。

訪問リハビリテーションの従事者には、自己のスキルアップを計画する際に学習課題を確認するためのツールとして活用を推奨する。

※) コマ数：カリキュラムフレームの研修科目の講義時間数。1コマ×90分で算出。実務者研修会の研修科目の講義時間については「シラバス」に参考となる講義時間を掲載している。

カリキュラム全体の人材育成の基本骨格は、以下の 3 項目からなる。これらを踏まえて各研修会において人材育成を進める。

- ①東日本大震災のような大規模災害が起こった時に、医師の指示がなくても対象者の全身状態を把握し、必要なリハビリテーションアプローチを提供できる訪問リハビリテーション従事者を育てる。
- ②活動・参加につなぐリハビリテーションアプローチを提供し、主体的かつ生きがいのあるその人らしい人生の再建・地域参加を促す事ができる訪問リハビリテーション従事者を育てる。
- ③これらの活動を通して、国民の生活の質の向上と医療・介護における社会保障費の抑制を推進し、社会に貢献していく。

1. 訪問リハビリテーション実務者研修会

実務者として医療職・専門職の基本技能と社会人としての心得を身に付け、質の高い訪問リハビリテーション従事者を養成するための専門研修科目で構成されている。

「基本スキル」とは、訪問リハビリテーションを提供するにあたっての基本的なスキル。

「医学的対応スキル」とは、訪問リハビリテーションを提供するにあたって、より高度な医学的対応を行えるようにするためのスキル。

「生活コーディネートスキル」とは、個別性のある対象者や生活に対して療法士の専門性を活かして全体を調整するスキル。

実際の各都道府県での本カリキュラムフレームの運用においては、研修科目や研修形態、概要、キーワード例を参考に企画・運営を推奨する。必ずしもこの内容と一致した研修を実施しないといけないのではなく、参考資料としてご活用いただきたい。

2. 訪問リハビリテーション管理者養成研修会

管理者としての管理技能を高め、職場や地域における対応能力の高い訪問リハビリテーション従事者を養成するための管理研修科目で構成されている。

「管理運営スキル STEP 1」とは、管理者入門をテーマとした管理スキル。

「管理運営スキル STEP 2」とは、管理スキルアップをテーマとした管理スキル。

「管理運営スキル STEP 3」とは、事業運営管理入門をテーマとした管理スキル。

3. 訪問リハビリテーション管理者研修会

管理者としてのネットワーク作りや更なるステップアップを促し、地域で活躍する訪問リハビリテーション従事者を養成するための上級管理研修科目で構成されている。

「管理者ステップアップスキル」とは、地域ネットワークの強化やスキルアップ研修、講師育成研修を含む上級管理スキル。

訪問リハビリテーション従事者 研修会カリキュラムフレーム

<訪問リハビリテーション従事者人材育成の基本骨格>

- ①東日本大震災のような大規模災害が起こった時に、医師の指示がなくても対象者の全身状態を把握し、必要なリハビリテーションアプローチを提供できる訪問リハビリテーション従事者を育てる。
- ②活動・参加につながるリハビリテーションアプローチを提供し、主体的かつ生きがいのあるその人らしい人生の再建・地域参加を促す事ができる訪問リハビリテーション従事者を育てる。
- ③これらの活動を通して、国民の生活の質の向上と医療・介護における社会保障費の抑制を推進し、社会に貢献していく。

研修会名
研修テーマ
主な対象者
視点
実施主体
研修目的

基礎スキル	研修形態	コマ数	概要	キーワード例
訪問リハを取り巻く社会的背景	講義		訪問リハの社会的背景と訪問リハの社会的役割について知る	社会背景流れ、医療・介護制度流れ、地域包括ケア、社会における訪問リハ役割、市区町村介護保険計画
訪問リハ振興財団の活動と人材育成ガイドライン	講義		訪問リハ振興財団の活動と人材育成ガイドラインを学ぶ	訪問リハ振興財団の組織と活動、訪問リハビリテーション従事者のための人材育成ガイドライン
訪問リハビリテーション従事者としての倫理・役割・心構え	講義		専門職として、組織人として、人としての倫理・役割・心構えを学ぶ	専門職として、組織人として、人としての倫理・役割・心構え、社会的責務、法令遵守、地域貢献
訪問リハ実践の基本的考え方	講義		訪問リハの基本的な考え方方を学ぶ	訪問リハの目的と意義、専門性、病院との違い、在宅支援の基本、対象者と家族、持ち物、ニーズとホープ
評価からプログラム立案	講義・演習		訪問リハにおける評価から課題抽出、予後予測、プログラムの立案までの流れを学ぶ	活動中心の評価、課題抽出、生活機能の予後予測、目標(ゴール)設定の立て方
訪問リハビリテーション従事者の役割と実践	講義		訪問リハビリテーション従事者の役割と実践を学ぶ	訪問リハ従事者の役割、評価、生活機能(活動、心身機能、参加)へのアプローチ、環境面(住環境、介護者、福祉用具、補装具)アプローチ、事例報告
訪問リハ事業所・訪問看護ステーション事業所の運営の実践	講義		訪問リハ事業所(病院・老健)、訪問看護ステーションそれぞれの実践を知る	訪問リハ事業所(病院・老健)、訪問看護ステーション、事業所特色、サテライト、独自システム
接遇・対人援助技術	講義・演習		接遇及び対人援助技術について学ぶ	サービス業としての接遇、ビジネスマナー、訪問時のマナー、対人援助技術、クレーム対応
ADL・IADLアプローチ	講義		ADL・IADLに対するアプローチの展開の実践を学ぶ	ADL(食事・排泄・入浴・移動等)アプローチ、IADL(家事・仕事・趣味活動・外出・社会参加等)アプローチ、生活行為向上マネジメント
生活機能の活性化に向けたアプローチ	講義		日常生活での生活機能(心身機能・参加)の活性化に向けたアプローチを学ぶ	生活習慣の確立、日常生活での役割・役割(参加)の導入、自主トレーニングの導入、通所サービスへの移行、外出支援、社会参加促進、ICF、生活行為向上マネジメント
訪問リハの実績と効果判定	講義		訪問リハのアプローチの実績や効果の判定方法について学ぶ	ADL(食事・排泄・入浴・移動等)、IADL(家事・仕事・趣味活動・外出・社会参加等)の再評価、評価指標、評価表
訪問リハにおけるリスク管理	講義		利用者におけるリスク管理と従事者におけるリスク管理を学ぶ	利用者リスク管理(健康管理、状態悪化、急変時対応、転倒、ケガ等)、従事者におけるリスク管理(交通事故、感染、クレーム、健康悪化、メンタル不調等)
当事者目線でみた訪問リハのあり方	講義		当事者目線でみた訪問リハのあり方について学ぶ	当事者・家族目線、こころ・気持ち、挫折体験、生きる望み、人としての復権、障害と共に歩む、行動変容、リハへの苦言
地域連携とチームケア	講義		地域連携とチームケアを学ぶ	地域連携、チームケア、チームにおける役割、チーム力を上げる関わり、サービス担当者会議での役割、リハの視点の提供
訪問リハ実践で困ったこと	演習		訪問リハで困ったことをグループで討論し、様々な課題を整理するスキルを学ぶ	困ったこと、カテゴリー分類(利用者・家族、ケアマネ、病状、障害、住環境、経済等)、対策
これからの訪問リハ	講義		これからの訪問リハの展望、各種トピックスについて学ぶ	訪問リハの展望、制度改革、業界動向、特区訪問リハステーション、専門性の高い訪問リハ実践、脳科学応用、各種アプローチ技術
医学的対応スキル	研修形態	概要	キーワード例	
健康支援と疾病管理、医学的リスク管理	講義	医師及び看護師が行う健康支援と疾病管理方法、合併症予防、疾病毎の医学的リスク管理を学ぶ	健康支援、合併症予防、疾病毎の一般的な管理、診断の流れ、治療戦略、疾患毎の医学的リスク管理	
在宅医療機器の基礎知識	講義・実技	在宅医療者が使用している医療機器の基礎知識や使い方・注意点を学ぶ	酸素濃縮器、携帯ポンプ、カフアシスト、人工呼吸器、関連する環境調整	
急変時の対応・救命救急法	講義・実技	急変時の対応・救命救急法を学ぶ	急変時の対応、救命救急法、心臓マッサージ、AED、救命車の要請	
症状から学ぶフィジカルアセスメント	講義・実技	症状から学ぶフィジカルアセスメント/バイタルチェックを学ぶ	症状から学ぶフィジカルアセスメント、バイタルチェック、問診、視診、聴診、打診、触診	
服薬管理および薬の知識	講義	薬に対する知識と処方箋への情報把握を身につける	服薬管理、薬剤からの症状把握、薬剤の種類、副作用	
感染予防	講義・実技	感染防止の意義と具体的な予防法について学ぶ	スタンダードプリコーション、空間除菌、手指消毒、うがい、マスク着用	
痛みの知識	講義	痛みの発生メカニズム、種類と対応方法、痛みの除去技術を学ぶ	痛みの機序、発生メカニズム、痛みの除去、痛みへの対応	
肺炎に対する評価と予防および対応	講義・実技	肺炎の予防や初期対応、呼吸リハビリテーション、アセスメントを学ぶ	医師・看護師との連携、呼吸リハビリテーション、病理学知識、誤嚥、呼吸訓練、評価方法	
在宅要介護者への吸引	講義・実技	在宅要介護者への吸引方法、リスク管理、医師・看護師連携を学ぶ	医師・看護師との連携、在宅要介護者への吸引方法、リスク管理、手続き	
疾患別リハ対応	講義	疾患別の訪問リハの対応方法について学ぶ	脳血管障害、認知症、高齢者の骨折、呼吸器疾患、難病、末期がん、発達障害、先天性疾患、精神分野	
状態別リハ対応	講義	状態別の訪問リハの対応方法について学ぶ	人工呼吸器、在宅酸素療法、術後、透析	
病期別リハ対応	講義	病期別の訪問リハの対応方法について学ぶ	在宅急性期、在宅回復期、生活期、在宅終末期、早期退院	
医療依存度の高い事例検討	演習	医療依存度の高い事例に関するグループ討論を行い対応ノウハウを学ぶ	医療依存度の高い事例、特別な医療管理	
生活コーディネータスキル	研修形態	概要	キーワード例	
リハカウンセリング	講義・演習	対象者の精神面(気持ち)に着目した支援過程を学ぶ	気持ち・こころ、カウンセリング、傾聴、動機付け、主体性の賦活、ピアカウンセリング、受容過程、国民の義務	
住環境整備(住宅改修・改造・改善)	講義・実技	住環境整備の基本的な考え方や進め方を学ぶ	改修・改造、事前コミュニケーション、適合技術、制度、介護施設および障害者制度の住宅改修費、自治体住環境整備費	
福祉用具・補装具・自動具	講義・実技	福祉用具・補装具・自動具の適合の基本と進め方を学ぶ	生活場面別福祉用具活用、レンタル、適合技術、補装具、自動具、制度、福祉用具体験、福祉用具専門相談員、福祉用具サービス計画書	
介助方法の伝達	講義・実技	介護者・介護サービス等への介助方法の伝達を学ぶ	介助方法の伝達、介護負担軽減、自立支援、負担者に合わせた関係	
介護者・家族支援	講義	介護者・家族支援の仕方について学ぶ	介護者・家族支援、当事者としての家族、介護負担の理解、家族内役割、家族学、利用者本意	
事業所内及び事業所外その他職種・他サービス連携	講義	事業所内及び事業所外その他職種連携を学ぶ	事業所内連携、事業所外その他職種(医師、ケアマネ、介護士、看護師等)、他サービス(通所サービス、病院、老健等)	
ケアプランとケアマネとの連携	講義・演習	ケアプランとケアマネとの連携について学ぶ	ケアプラン、提供費、担当者会議、地域ケア会議、ケアマネ支援、アセスメント、モニタリング、課題分析、介護保険の理解	
社会資源の活用	講義・演習	社会資源の活用を学ぶ	社会資源、インフォーマルサービス、当事者ネットワーク、ピアカウンセリング、訪問リハ事業の確保、社会参加	
困難事例の対応の仕方	講義・演習	困難事例の対応の仕方を学ぶ	本人の障害・病状、意欲低下、クレーム、介護者及び家族、住環境、経済、ケアチーム	
管理運営スキル STEP1	研修形態	概要	キーワード例	
訪問リハを取り巻く制度的背景と求められる社会的役割	講義	1 制度的背景や厚生労働省からの意向も含めて学ぶ	地域包括ケア、医療保険、介護保険、訪問リハ制度、訪問リハへの意向	
訪問リハ振興財団の活動と今後の展望	講義	1 訪問リハ振興財団の位置付けや活動、今後の展望、管理者要件について学ぶ	訪問リハ振興財団の位置付け、活動、特区訪問リハステーション、今後の展望、管理者要件	
事業所管理者の心構えと求められる役割	講義	1 一職員から管理職へどう意識や行動を変えていけばいいのメンタルヘルスも含めて学ぶ	管理者の心構え、役割、リーダーシップ、意識・行動改革	
活動・参加につながる訪問リハにおけるPT・OT・STの専門性	シンポジウム	2 活動・参加につながる訪問リハにおけるPT・OT・STの専門性を学ぶ	PTOTSTの専門性、事業所サービス作り	
ケアマネジメントと訪問リハのあり方	講義	1 適切なケアプランのあり方、ケアマネと訪問リハの連携、訪問リハに期待することを学ぶ	適切なケアプラン、ケアマネと訪問リハの協働、担当者会議、地域ケア会議	
事業所内外的連携と地域ネットワーク作り	講義	1 事業所内及び事業所外での連携の実践と地域ネットワークの作り方を学ぶ	事業所内協働、事業所外協働、体制作り、ネットワーク作り、担当者会議、訪問看護、訪問介護、リハ視点の導入	
事業所管理者の役割と組織作り	講義	1 小規模事業所管理者の役割と組織作りを経験者の事例を通して学ぶ	管理者の役割、組織化、経験者の事例	
管理者とスタッフ間のコミュニケーションのあり方	講義	1 スタッフとのコミュニケーションのとり方、あり方、働きやすい職場環境作り	管理者スタッフ関係、コミュニケーション手法、コーチング、面接技術	
管理者とスタッフ間のコミュニケーションのあり方	演習	1 スタッフとどのような関係性を形成すべきかを学ぶ	管理者スタッフ関係、コミュニケーション手法、コーチング、面接技術	
事業所における教育研修体制	講義	1 事業所内での訪問リハ教育研修体制の構築のあり方について	教育研修体制、ラダー、スーパーバイズ、外部研修、年間計画	
管理者としてどのように事業所内の人材育成を進めるか	WS	2 人材育成・教育研修の仕方を学ぶ	教育研修体制、ラダー、スーパーバイズ、外部研修	
STEP2 予告	講義	0.3 STEP2研修会の意味や内容を予告する		
管理運営スキル STEP2	研修形態	概要	キーワード例	
訪問リハ事業所の事業運営と法令遵守	講義	1 訪問リハ事業所の制度的な事業運営の流れや必要な手続きを学ぶ	訪問リハ事業所制の流れ、システム、リハ計画、指示の流れ	
訪問看護ステーションの事業運営と法令遵守	講義	1 訪問看護ステーションの制度的な事業運営の流れや必要な手続きを学ぶ	訪問看護ステーション制の流れ、システム、看護計画、指示の流れ	
管理者としてどのように法令を遵守した運営をしていくか	WS	2 法令を遵守する運営のポイントを理解し業務への応用の仕方を学ぶ	憲法、法律、地方自治体法律、医療保険、介護保険、道路交通法、法令に基づくシステム	
効率的な訪問事業運営のためのシステムの工夫	講義	1 効率的な訪問事業運営のための様々なシステム・工夫を知り、業務改善の視点を学ぶ	新規の受入れから定期訪問へ、訪問スケジュール管理、訪問体制、稼働率、営業など業務管理の基本	
健康支援とフィジカルアセスメント	講義	1 事業所における健康支援とフィジカルアセスメントスキルの向上及び体制作り	健康支援、フィジカルアセスメントスキルの向上、体制作り	
急変時の対応と救命救急法1	講義	1 訪問時に想定される急変時の対応や事業所として必要な準備を学ぶ	急変時の対応、救命救急法、体制作り	
急変時の対応と救命救急法2	実技	1 実技を通して、訪問時に想定される急変時の対応や事業所として必要な準備を学ぶ	急変時の対応、救命救急法実技、体制作り	
医療依存度の高い対象者への訪問リハの実践と事業所としての対応方法	シンポジウム	2 医療依存度の高い対象者への訪問リハの管理者としてのマネジメント、事業所としての対応方法を学ぶ	医療依存度の高い難しい事例(難病・重度障害・末期など)	
事業所の課題解決と組織化	講義	1 事業運営上の様々な課題をどう解決し、組織化を進めていける事業事例を通して学ぶ	事業所の組織化、システム作り、課題解決方法	
管理者としての組織・システム作りを学ぶ	WS	2 組織作りやシステム作りの具体的な方法を学ぶ	事業所の組織化、システム作り、課題解決方法	
STEP3 予告	講義	0.3 STEP3研修会の意味や内容を予告する		
管理運営スキル STEP3	研修形態	概要	キーワード例	
経営的視点と事業計画の立て方①	講義	1 経営管理に必要な専門知識や資料の読み方、部門事業計画の立て方及びチェックポイントを学ぶ	経営用語、経営資料の見方、損益分岐、事業計画立て方	
経営的視点と事業計画の立て方②	演習	1 事業計画の立て方を学び、実際に立ててみる	部門事業計画作成、赤字から黒字への経営計画	
労務管理と就業規則	講義	1 労務管理の基本と就業規則について学ぶ(事前学習あり)	労務管理の基本、就業規則、所属先の就業規則	
職員募集・採用、定定期面談、健康管理、役割・配置、人事考課などを学ぶ	講義	1 職員募集・採用、定定期面談、健康管理、役割・配置、人事考課などを学ぶ	職員募集・採用、役割・配置、定期面談、人事考課、ワークライフバランス、健康管理、体調不良者への対応	
訪問リハ財団が訪問リハ管理者に期待するもの	講義	1 訪問リハ振興財団が訪問リハ管理者に期待するものを具体的に学ぶ	制度状況、管理者要件、地域リーダー、実務者研修会運営	
事業所運営上のリスク・運営トラブルの管理の仕方	講義	1 事業を行ううえでの様々なリスクを知り、具体的な運営トラブルに対する対応方法を学ぶ	事業リスク、運営トラブル対応方法、トラブル例	
管理者として事業リスクをどうコントロールしていくか	WS	2 様々な事業リスクに対する具体的な対応方法を学ぶ	事業リスクコントロール	
当事者・家族からみた地域リハビリテーションのあり方	講義	1 当事者・家族からみた地域リハビリテーション、人としての復権のあり方を学ぶ	当事者・家族の心理、高齢者・障害者の地域生活、ピアカウンセリング、社会参加、気持ちの変化	
認定テスト	筆記テスト	1 管理者としての資質をテストの実施を通して確認する	管理者としての視点	
訪問リハ事業所の運営のあり方	WS	2 管理者としてのあり方や事業所運営のあり方を具体的に理解し今後活かせる	事業所運営、スタッフ管理、利用者管理、経営管理	
管理者としての志を立てる!	演習	1 STEP1~3を通して、管理者としての自分の志を立て、グループや全体で共有する	管理者としての志、目標、管理者像	
管理者研修会 予告	講義	0.3 管理者研修会の意味や内容を予告する		
管理者ステップアップスキル	研修形態	概要	キーワード例	
訪問リハ振興財団の活動と地域における訪問リハに期待する事	講義	1 訪問リハ振興財団の活動と地域における訪問リハに期待する事、地域包括ケアにおける取組の役割を学ぶ	訪問リハ振興財団トピックス、地域における訪問リハビリテーション従事者の役割	
訪問事業所の管理者としての実践報告	講義	1 訪問リハ事業所及び訪問看護ステーションの管理者の実践報告から学ぶ	サービス管理、スタッフ管理、経営者との関係性、自己管理	
管理者として運営管理で困っている事	WS	2 管理者として運営管理に携わり困っていることを共有し、整理分類する	経営管理、スタッフ管理、営業管理、利用者管理、他事業所との連携、管理者のメンタルヘルス	
ナイトセミナー	演習	1 参加者同士のネットワーク作りと情報交換を行う	地域ネットワーク作り、情報共有	
世界の訪問リハ事情について	講義	1 世界の訪問リハ事情について学び、日本のあり方を考える	世界の訪問リハ、制度、学ぶべきポイント	
講師としてのプレゼンテーションスキル	講義	1 研修会講師のプレゼンテーションスキルを学ぶ、訪問リハ実践、ケアマネ勉強会、他職種勉強会	プレゼンテーションスキル パワーポイント、訴求力、説明力、組み立て方	
訪問リハ実務研修会の企画・運営の実践	シンポジウム	2 訪問リハ実務研修会の企画・運営について、2つの地域の事例を通して学ぶ	訪問リハ実務研修会企画・運営、地域リーダー、訪問リハビリテーション従事者育成、講師養成、地域づくり	

－第5章－ シラバス

第4章の研修会カリキュラムフレームの研修科目一つひとつを詳細に説明し「シラバス」とした。平成26年度からは本シラバスを使用して、訪問リハビリテーション管理者養成研修会および訪問リハビリテーション管理者研修会を企画・運営していく。

それに伴い、前章でも述べた通り各都道府県で開催される訪問リハビリテーション実務者研修会の企画に関しても本シラバスを参照いただけることを願っている。

下記はシラバスの読み方を参照したもの。次項以降は訪問リハビリテーション実務者研修会、訪問リハビリテーション管理者養成研修会および訪問リハビリテーション管理者研修会の順にシラバスを掲載する。

No.	※識別コード: 管理上の番号			
研修科目名	※カリキュラムフレームの研修科目が表示			
研修会名	※研修会の種類が表示	※研修会のレベルが表示	研修形態	※理想の研修形態を表示
研修種別	※研修科目の種類が表示	※研修科目の分類が表示	研修時間	※研修時間の目安を表示
講師例	※研修科目の講義に相応しい講師例を表示			
概要	※研修科目の概要を表示			
到達目標	※受講者の到達目標を表示			
講義内容	※講義に取り入れていただきたい内容を表示			
備考				

訪問リハビリテーション 実務者研修会

シラバス

No.	1101			
研修科目名	訪問リハを取り巻く社会的背景			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	医療・介護保険制度に精通する者			
概要	訪問リハの社会的背景と訪問リハの社会的役割について知る			
到達目標	訪問リハの社会的背景と社会的役割を理解することができる			
講義内容	1.社会背景流れ 2.医療・介護制度流れ 3.地域包括ケアシステムについて 4.社会における訪問リハの役割 5.市区町村介護保険計画			
備考				

No.	1102			
研修科目名	訪問リハ振興財団の活動と人材育成ガイドライン			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	60分
講師例	訪問リハビリテーション振興財団役員及び委員			
概要	訪問リハ振興財団の活動と人材育成ガイドラインを学ぶ			
到達目標	訪問リハ振興財団の活動と訪問リハ従事者のための人材育成ガイドラインを理解することができる			
講義内容	1.3協会の訪問リハに関する活動について 2.訪問リハ振興財団の組織と活動 3.訪問リハ従事者のための人材育成ガイドラインについて			
備考				

No.	1103			
研修科目名	訪問リハビリテーション従事者としての倫理・役割・心構え			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	事業所管理者またはその経験者			
概要	専門職として、組織人として、人としての倫理・役割・心構えを学ぶ			
到達目標	訪問専門職として、組織人として、人としての倫理・役割・心構えを理解することができる			
講義内容	1.専門職としての倫理・役割・心構え 2.組織人としての倫理・役割・心構え 3.人としての倫理・役割・心構え 4.社会的責務、地域貢献			
備考				

No.	1104			
研修科目名	訪問リハ実践の基本的考え方			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	訪問リハの基本的な見方考え方を学ぶ			
到達目標	訪問リハの実践に必要な基本的な考え方を理解することができる			
講義内容	1.訪問リハの目的と意義 2.訪問リハの専門性について 3.病院との役割、アプローチの違いについて 4.在宅支援の基本 5.対象者の特性と家族の機能、役割について 6.持ち物 7.ニーズとホープ			
備考				

No.	1105			
研修科目名	評価からリハビリプログラムの立案			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義・演習
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	訪問リハにおける評価から課題抽出、予後予測、プログラムの立案までの流れを学ぶ			
到達目標	評価からリハビリプログラムの立案までの流れが理解できる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.活動・参加を意識した評価について 2.生活全般の解決すべき課題(ニーズ)について 3.生活機能の予後予測について 4.目標(ゴール)設定の考え方、方法について 			
備考				

No.	1106			
研修科目名	訪問リハビリテーション従事者の役割と実践			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	訪問リハビリテーション従事者の役割と実践を学ぶ			
到達目標	訪問リハビリテーション従事者の役割と実践を理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.訪問リハビリテーション従事者の役割について 2.生活機能(活動、心身機能、参加)へのアプローチ 3.環境面(住環境、介護者、福祉用具、補装具)へのアプローチ 4.事例報告 			
備考				

No.	1107			
研修科目名	訪問リハ事業所、訪問看護ステーション事業所の運営の実際			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	60分
講師例	事業所管理者またはその経験者			
概要	訪問リハ事業所(病院・老健)、訪問看護ステーションそれぞれの運営の実際を知る			
到達目標	訪問リハ事業所、訪問看護ステーションの運営について理解することができる			
講義内容	1.訪問リハ事業所(病院・老健)について 2.訪問看護ステーションについて 3.事業所形態の違いによる特徴 4.サテライトについて 5.独自システムについて			
備考				

No.	1108			
研修科目名	接遇・対人援助技術			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義・演習
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	コーチング講師もしくは企業向け人事研修の講師等			
概要	接遇及び対人援助技術について学ぶ			
到達目標	接遇及び対人援助技術を学ぶことができる			
講義内容	1.サービス業としての接遇 2.ビジネスマナー 3.訪問時のマナー 4.対人援助について必要な知識・技術			
備考				

No.	1109			
研修科目名	ADL・IADLアプローチ			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	ADL・IADLに対するアプローチの展開の実際を学ぶ			
到達目標	ADL・IADLに対するアプローチの展開の実際を理解することができる			
講義内容	1.ADL(食事・排泄・入浴・移動等)アプローチについて 2.IADL(家事・仕事・趣味活動・外出・社会参加等)アプローチについて 3.生活行為向上マネジメントについて			
備考				

No.	1110			
研修科目名	生活機能の活性化に向けたアプローチ			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	日常生活での生活機能(心身機能・活動・参加)の活性化に向けたアプローチを学ぶ			
到達目標	日常生活での生活機能の活性化に向けたアプローチを理解することができる			
講義内容	1.生活意欲の賦活 2.日常生活での役割・作業・日課の導入 3.自主トレーニングの導入 4.通所サービスへの移行 5.外出支援 6.社会参加促進 7.ICF 8.生活行為向上マネジメント			
備考				

No.	1111			
研修科目名	訪問リハの実績と効果判定			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	60分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	訪問リハのアプローチの実績や効果の判定方法について学ぶ			
到達目標	訪問リハのアプローチの実績や効果の判定方法について理解することができる			
講義内容	1.ADL(食事・排泄・入浴・移動等)の再評価、評価指標、評価表 2.IADL(家事・仕事・趣味活動・外出・社会参加等)の再評価、評価指標、評価表			
備考				

No.	1112			
研修科目名	訪問リハにおけるリスク管理			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	事業所管理者またはその経験者、看護師			
概要	利用者におけるリスク管理と従事者におけるリスク管理を学ぶ			
到達目標	利用者におけるリスク管理と従事者におけるリスク管理を理解することができる			
講義内容	1.利用者リスク管理(健康管理、状態悪化、急変時対応、転倒、ケガ等) 2.従事者におけるリスク管理(交通事故、感染、クレーム、健康悪化メンタル不調等)			
備考				

No.	1113			
研修科目名	当事者目線でみた訪問リハのあり方			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	60分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	当事者目線でみた訪問リハのあり方について学ぶ			
到達目標	当事者目線でみた訪問リハのあり方を理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.当事者・家族の目線 2.当事者・家族の心理状態 3.挫折体験、生きる望み 4.人としての復権、障害と共に歩むことについて 5.行動変容のプロセスについて 6.リハへの苦言など 			
備考				

No.	1114			
研修科目名	地域連携とチームケア			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	90分
講師例	医師、看護師、ケアマネージャーなど			
概要	地域連携とチームケアを学ぶ			
到達目標	地域連携とチームケアを理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域連携の在り方について 2.チームアプローチの重要性について 3.連携の必要な知識・技術とは 4.サービス担当者会議での役割 5.リハ的視点の提供 			
備考				

No.	1115			
研修科目名	訪問リハ実践で困ったこと			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	演習
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	120分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	訪問リハで困ったことをグループで討論し、様々な課題を整理するスキルを学ぶ			
到達目標	訪問リハで困ったことをグループで討論し、様々な課題を整理するスキルを理解することができる			
講義内容	1.訪問リハで難渋しているケース 2.問題解決のためのカテゴリー分類(利用者・家族、ケアマネ、病状、障害、住環境、経済等) 3.問題解決のための方策			
備考				

No.	1116			
研修科目名	これからの訪問リハ			
研修会名	実務者研修会	初任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	基礎スキル	研修時間	60分
講師例	事業所管理者またはその経験者			
概要	これからの訪問リハの展望、各種トピックスについて学ぶ			
到達目標	これからの訪問リハの展望、各種トピックスを学ぶことができる			
講義内容	1.訪問リハの展望 2.制度改正 3.業界動向 4.特区訪問リハステーション 5.専門性の高い訪問リハ実践 6.各種アプローチ技術			
備考				

No.	1201			
研修科目名	健康支援と疾病管理、医学的リスク管理			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	医師または、訪問看護事業所で勤務するNs.、PT、OT、ST			
概要	医師及び看護師が行う健康支援や疾病管理方法、合併症予防、疾病毎の医学的リスク管理を学ぶ			
到達目標	医学的リスク管理について理解し、対象者の変化を捉えることができる			
講義内容	1.健康支援について 2.合併症の予防について 3.疾病毎の一般的な管理 4.診断の流れ 5.治療戦略 6.疾病毎の医学的リスク管理について			
備考				

No.	1202			
研修科目名	在宅医療機器の基礎知識			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	120分
講師例	医師または、訪問看護事業所で勤務するNs.、PT、OT、ST			
概要	在宅療養者が使用している医療機器の基礎知識や使い方・注意点を学ぶ			
到達目標	在宅で使用している医療機器の正しい取り扱いと使用方法について理解ができる 異変時に医師の指示にて対応することができる			
講義内容	1.酸素濃縮器、携帯ボンベ、カフアシスト、人工呼吸器などの在宅医療機器について 2.医療機器の適応する疾患について 3.医療機器の取り扱いと管理について 4.各疾患毎の在宅医療機器の導入時期について			
備考				

No.	1203			
研修科目名	急変時の対応・救命救急法			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	120分
講師例	医師または、訪問看護事業所で勤務するNs.、PT、OT、ST			
概要	急変時の対応・救命救急法を学ぶ			
到達目標	急変時に迅速で的確な判断と対応ができ、関連機関に正しく情報伝達することができる			
講義内容	1.各疾患毎に起こりうる急変時の観察ポイント 2.急変時の判断と対応について 3.救急救命法について			
備考				

No.	1204			
研修科目名	症状から学ぶフィジカルアセスメント			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	医師または、訪問看護事業所で勤務するNs.、PT、OT、ST			
概要	バイタルチェック・フィジカルアセスメントを学ぶ			
到達目標	在宅療養者の疾患毎の症状に合わせたフィジカルアセスメントができる			
講義内容	1疾患毎にみられる症状の特徴について 2.フィジカルアセスメントの方法について 3.バイタルサインの測定、観察方法について 4.問診・視診・触診・聴診・打診の方法について			
備考				

No.	1205			
研修科目名	服薬管理および薬の知識			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	60分
講師例	医師または、看護師、薬剤師			
概要	薬に対する知識と処方薬による情報把握を身につける			
到達目標	疾病毎の薬の知識を理解し、副作用の症状を早期に発見することができる			
講義内容	1. 疾病毎に処方される薬についてのリスク 2. 薬剤からの症状把握(副作用を含む) 3. 正しい服薬の方法や管理について			
備考				

No.	1206			
研修科目名	感染予防			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	60分
講師例	医師または訪問看護事業所で勤務する看護師			
概要	感染防止の意義と具体的な予防法について学ぶ			
到達目標	感染防止の意義と具体的な予防法について理解することができる			
講義内容	1. 感染防止の意義 2. 感染の基礎知識 3. スタンダードプリコーション、空間除菌、手指消毒、うがい、マスク着用などの予防法について			
備考				

No.	1207			
研修科目名	痛みの知識			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	60分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT			
概要	痛みの発生メカニズム、種類と対応方法、痛みの除去技術を学ぶ			
到達目標	痛みの発生機序を理解し、痛みの種類に応じた除去や対応をとることができる			
講義内容	1.痛みの発生メカニズム 2.痛みの種類 3.痛みへの対応方法 4.痛みの除去について 5.鎮痛薬についての基礎知識			
備考				

No.	1208			
研修科目名	肺炎に対する評価と予防および対応			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	60分
講師例	医師、看護師もしくは訪問に従事し呼吸リハビリテーションに精通するリハ職種			
概要	肺炎の予防や初期対応、呼吸リハビリテーション、アセスメントを学ぶ			
到達目標	肺炎に対する評価ができ、予防や初期対応が的確にできる 呼吸リハビリテーションを理解し、他職種と連携することができる			
講義内容	1.呼吸リハビリテーションの基礎知識 2.肺炎の種類について 3.肺炎に対する評価 4.肺炎に対する対応とその予防について 5.関連職種との連携について			
備考				

No.	1209			
研修科目名	在宅要介護者への吸引			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	60分
講師例	医師または看護師			
概要	在宅要介護者への吸引方法、リスク管理、医師・看護師連携を学ぶ			
到達目標	在宅要介護者への吸引方法やリスク管理ができる			
講義内容	1.吸引方法と手順について 2.吸引のリスク管理について 3.医師及び看護師との連携について			
備考				

No.	1210			
研修科目名	疾患別リハ対応			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	疾患別の訪問リハの対応方法について学ぶ			
到達目標	疾患別の訪問リハの対応方法を理解し、効果的なアプローチを行うことができる			
講義内容	1.脳血管障害、認知症、高齢者の骨折、呼吸器疾患、難病、末期がん、発達障害 先天性疾患、精神分野などの訪問リハの実際について 2.難病や末期がん、発達障害、精神分野について、病期や心理面、社会的背景等 に対し時期別に介入していく必要性について 3.難病の方に必要となる福祉機器の時期別の効果的な導入について			
備考				

No.	1211			
研修科目名	状態別リハ対応			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	状態別の訪問リハの対応方法について学ぶ			
到達目標	状態を理解しリスクを軽減しながら、訪問リハを提供することができる			
講義内容	1.人工呼吸器、在宅酸素療法、術後、透析等で状態が不安定な利用者の観察ポイント 2.上記状態の利用者のリスク管理 3.上記状態の利用者の禁忌事項			
備考				

No.	1212			
研修科目名	病期別リハ対応			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	病期別の訪問リハの対応方法について学ぶ			
到達目標	各病期において的確なリハの提供ができる 関連職種と連携し必要な支援を提供することができる			
講義内容	1.在宅急性期、在宅回復期、生活期、在宅終末期、早期退院等、それぞれの病期で必要となるリハアプローチについて 2.病期別で必要となる他職種との連携について			
備考				

No.	1213			
研修科目名	医療依存度の高い事例検討			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	演習
研修種別	専門研修科目	医学的対応スキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT、OT、ST			
概要	医療依存度の高い事例に関するグループ討論を行い対応ノウハウを学ぶ			
到達目標	医療依存度の高い事例のリスク管理や予後予測ができる 医療依存度の高い事例の対応のノウハウを理解することができる			
講義内容	1.医療依存度の高い事例のリスク管理 2.医療依存度の高い事例の予後予測 3.他職種との連携について 4.課題についてディスカッション 5.グループ討議 6.意見交換			
備考				

No.	1215			
研修科目名	リハカウンセリング			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・演習
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	臨床心理士もしくはPT、OT、STの訪問熟練者			
概要	対象者の精神面(気持ち)に着目した支援過程を学ぶ			
到達目標	適切なカウンセリングにより利用者の自立支援を促す効果があることを理解することができる			
講義内容	1.障害受容の過程について 2.障害受容についての新たな知見 3.利用者と接する際のセラピスト(自分)の態度について 4.カウンセリング(傾聴の方法)の重要性について 5.身体機能・能力だけのアプローチではなく、精神的な支援により効果的な自立支援が可能であることについて			
備考				

No.	1216			
研修科目名	住環境整備(住宅改修・改造・改善)			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	ケアマネ資格を持つPT、OT、ST 建築士免許をもつPT、OT、ST 住環境整備に精通したPT、OT、ST			
概要	住環境整備の基本的な考え方や進め方を学ぶ			
到達目標	症例の基本的な住環境整備の計画立案ができる			
講義内容	1.訪問で必須となる住宅改修例について 2.基本的な住環境への適合技術について(評価のポイント、改修のポイント) 3.住環境整備に関する制度について(介護保険・障害者の制度) 4.円滑な多職種連携について(情報収集・提供の方法) 5.シームレスな住環境の提供について 6.住宅改修の計画立案について			
備考				

No.	1217			
研修科目名	福祉用具・補装具・自助具			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	リハビリテーションセンター(特に在宅支援をしている)のPT、OT、ST 在宅支援に詳しいPO(義肢装具士)			
概要	福祉用具・補装具・自助具の適合の基本と進め方を学ぶ			
到達目標	福祉用具の適合技術を学習し、生活に則した提案ができる 補装具の適合技術を学習し、自立度向上のための提案ができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.福祉用具の活用により生活障害が改善されることについて 2.福祉用具サービス計画書について 3.補装具の適合評価やメンテナンス方法、また新規で作製する場合のポイント (自立支援、生活障害の改善)と作製手順について 4.介護保険法および障害者制度における福祉用具のレンタル・購入や補装具の処方 についての違いについて 			
備考				

No.	1218			
研修科目名	介助方法の伝達			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・実技
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハの熟練者であるPT、OT、ST 介護サービス事業所に勤務しているPT、OT、ST			
概要	介護者・介護サービス等への介助方法の伝達を学ぶ			
到達目標	生活障害を改善するために有効な介助方法の伝達ができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.生活障害の改善が困難な症例について 2.ヘルパー等の関連職種および家族への適切な介助方法指導について 3.介助方法の指導法の具体例について 4.介護者の介護負担が増大している症例についての対応 			
備考				

No.	1219			
研修科目名	介護者・家族支援			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	在宅支援をしている社会福祉士			
概要	介護者・家族支援の仕方について学ぶ			
到達目標	介護者(特に家族)が抱える課題について、その解決方法を理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.介護者(特に家族)が抱く心理的負担や課題について 2.利用者、介護者の双方の立場での課題解決について 3.関係職種との連携について 4.症例紹介 5.介護者・家族支援の具体的な方法と効果について 			
備考				

No.	1220			
研修科目名	事業所内及び事業所外の他職種・他サービス連携			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	職種は問わず、在宅支援を実践されている方で連携・協働に精通している方 在宅支援を実践されている社会福祉士			
概要	事業所内及び事業所外の他職種連携を学ぶ			
到達目標	関連職種・関連サービスと一人の利用者を支援する方法について理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.事業所内の関連職種と一緒に一人の利用者を支援する際の具体的な手順と方法 2.事業所外の関連職種と一緒に一人の利用者を支援する際の具体的な手順と方法 3.目標の共有(明確な目標設定)について 4.役割分担の明確化について 5.関連職種の尊重について 			
備考				

No.	1221			
研修科目名	ケアプランとケアマネとの連携			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・演習
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	熟練のPT、OT、STもしくはケアマネ資格を有するPT、OT、ST PT、OT、STと連携の経験があるケアマネジャー			
概要	ケアプランとケアマネとの連携について学ぶ			
到達目標	ケアプランについて理解し、ケアマネを支援する方法について理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.ケアマネの業務とその役割について 2.ケアマネが作成する書類(アセスメント表、居宅サービス計画、モニタリング表 課題分析表など)について 3.ケアマネに対して、計画の修正(目標や手段の変更)を提案したり、利用者の経過を報告する具体的な方法について 			
備考				

No.	1222			
研修科目名	社会資源の活用			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・演習
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	在宅支援を実践している社会福祉士、行政機関の社会福祉士 ケアマネジャー			
概要	社会資源の活用の仕方を学ぶ			
到達目標	社会資源の把握方法、その活用の方法について理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.所属する地域の社会資源を把握する方法について 2.社会資源を活用し、自立度が向上した症例について 3.現在担当している利用者、どのような社会資源が導入できるかを想定しプランニング 			
備考				

No.	1223			
研修科目名	困難事例の対応の仕方			
研修会名	実務者研修会	現任者研修	研修形態	講義・演習
研修種別	専門研修科目	生活コーディネートスキル	研修時間	90分
講師例	訪問リハ熟練のPT、OT、ST			
概要	困難事例の対応の仕方を学ぶ			
到達目標	難渋する症例のパターンを把握し、具体的な対応方法を理解することができる			
講義内容	1.支援が滞ってしまう症例について 2.症例別の具体的な解決方法について			
備考				

訪問リハビリテーション
管理者養成研修会
STEP 1

シラバス

No.	2101			
研修科目名	訪問リハを取り巻く制度的背景と求められる社会的役割			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	90分
講師例	厚労省担当官もしくは医療・介護保険制度に精通する者			
概要	制度的背景や厚生労働省からの意向も含めて学ぶ			
到達目標	訪問リハの目指す方向性を考え、意識しながら現場の運営ができる			
講義内容	1.地域包括ケアの理念 2.地域包括ケアが必要とされる時代背景 3.医療制度・介護保険制度、両面からの訪問リハの制度的背景 4.今後、求められる訪問リハの方向性			
備考				

No.	2102			
研修科目名	訪問リハ振興財団の活動と今後の展望			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	90分
講師例	訪問リハビリテーション振興財団役員			
概要	訪問リハ振興財団の位置付けや活動、今後の展望、管理者要件について学ぶ			
到達目標	訪問リハビリテーション振興財団の位置づけ、活動内容、今後の展望を理解できる			
講義内容	1.訪問リハ振興財団の成り立ち、位置づけ 2.訪問リハ振興財団の活動内容 3.特区訪問リハステーションの紹介 4.訪問リハ振興財団が考える今後の展望			
備考				

No.	2103			
研修科目名	事業所管理者の心構えと求められる役割			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	90分
講師例	臨床心理士、心理学の専門家など			
概要	一職員から管理職へどう意識や行動を変えていけばいいのかメンタルヘルスも含めて学ぶ			
到達目標	管理職への意識改革ができる 管理職への行動改革ができる			
講義内容	1.一職員と管理職の違いについて 2.管理職の心構えについて 3.管理職の役割とは 4.管理職のメンタルヘルスについて 5.職員のメンタルヘルスについて			
備考				

No.	2104			
研修科目名	活動・参加につなぐ訪問リハにおけるPT・OT・STの専門性			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	シンポジウム
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	180分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所で勤務するPT,OT,ST			
概要	活動・参加につなぐ訪問リハにおけるPT・OT・STの専門性を学ぶ			
到達目標	活動・参加につなげる訪問リハ計画を立案するための指導ができる			
講義内容	1.訪問リハにおけるPT、OT、STの専門性について 2.専門性を生かした事業所サービスの作り方 3.活動・参加につなぐ訪問リハについて 4.活動・参加につなげる訪問リハ計画の作成について 5.活動・参加につなげる指導方法について			
備考				

No.	2105			
研修科目名	ケアマネジメントと訪問リハのあり方			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	90分
講師例	ケアマネジャー			
概要	適切なケアプランのあり方、ケアマネと訪問リハの連携、訪問リハに期待することを学ぶ			
到達目標	適切なケアマネジメントおよびケアプランの在り方について理解できる ケアマネとの連携の方法について理解し、職員へ指導できる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.適切なケアマネジメント、ケアプランとは 2.ケアプラン原案への早期介入 3.担当者会議での役割 4.ケアマネとの連携のあり方 5.職員への指導方法 			
備考				

No.	2106			
研修科目名	事業所内外の連携と地域ネットワーク作り			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	180分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	事業所内及び事業所外での連携の実際と地域ネットワークの作り方を学ぶ			
到達目標	事業所内外での連携について理解できる 連携の方法について指導ができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.連携についての基礎知識 2.事業所内連携、事業所外連携について 3.連携に必要なネットワーク作りについて 4.担当者会議での役割 5.訪問看護や訪問介護との連携のあり方～看護・介護計画へのリハ視点の導入 6.職員への指導方法 			
備考				

No.	2107			
研修科目名	事業所管理者の役割と組織作り			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	90分
講師例	事業所管理者またはその経験者			
概要	小規模事業所管理者の役割と組織作りを経験者の実例を通して学ぶ			
到達目標	実例を通して管理者の役割を理解することができる 実例を通して組織の作り方を理解することができる			
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> 1.管理者の役割について 2.組織化の意義、意味について 3.組織化の方法、手順について 4.事業所管理の経験者の実例 			
備考				

No.	2108			
研修科目名	管理者とスタッフ間のコミュニケーションのあり方1			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	90分
講師例	コーチング講師もしくは企業向け人事研修の講師等			
概要	スタッフとのコミュニケーションのとり方、あり方、働きやすい職場環境作り			
到達目標	スタッフとのコミュニケーションのあり方について理解することができる			
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> 1.労働者について 2.管理者とスタッフの関係(労使関係)について 3.コミュニケーションの手法について 4.コーチングについて 5.面接技術について 			
備考				

No.	2109			
研修科目名	管理者とスタッフ間のコミュニケーションのあり方2			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	演習
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	90分
講師例	コーチング講師もしくは企業向け管理者研修の講師等			
概要	スタッフとどのように関係性を形成すべきかを学ぶ			
到達目標	スタッフとのコミュニケーションのあり方について体験することができる			
講義内容	1.コミュニケーション手法の実践 2.コーチングの実践 3.面接技術の実践			
備考				

No.	2110			
研修科目名	事業所における教育研修体制			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	90分
講師例	事業所管理者またはその経験者			
概要	事業所内での訪問リハ教育研修体制の構築のあり方について			
到達目標	事業所内での訪問リハ教育研修体制の構築について理解することができる			
講義内容	1.事業所内の教育研修体制の構築方法について 2.ラダー、スーパーバイズ手法 3.外部研修の利用方法 4.年間計画の立て方			
備考				

No.	2111			
研修科目名	管理者としてどのように事業所内の人材育成を進めるか			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	WS
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	180分
講師例	事業所管理者またはその経験者または、人事研修の事業者			
概要	人材育成・教育研修の仕方を学ぶ			
到達目標	事業所内の人材育成について創造することができる			
講義内容	1.事業所内の人材育成のあり方について 2.事業所内の教育研修のあり方について			
備考				

No.	2112			
研修科目名	STEP2 予告			
研修会名	管理者養成研修会	STEP1	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理者入門	研修時間	30分
講師例	事務局スタッフ			
概要	STEP2研修会の意味や内容を予告する			
到達目標	STEP2研修会を受講する			
講義内容	1.管理者養成研修会 STEP2 の意義 2.管理者養成研修会 STEP2 の内容説明			
備考				

訪問リハビリテーション
管理者養成研修会
STEP 2

シラバス

No.	2201			
研修科目名	訪問リハ事業所の事業運営と法令順守			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	90分
講師例	訪問リハ事業所の管理者			
概要	訪問リハ事業所の制度的な事業運営の流れや必要な手続きを学ぶ			
到達目標	訪問リハ事業所の制度と事業運営、必要な手続きを理解することができる			
講義内容	1.訪問リハ事業の制度について 2.訪問リハ事業の開設について 3.訪問リハ事業の運営について 4.訪問リハ事業に必要な帳票について 5.訪問リハ事業に必要な報告、提出について			
備考				

No.	2202			
研修科目名	訪問看護ステーションの事業運営と法令順守			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	90分
講師例	訪問看護ステーションの管理者もしくは中間管理者			
概要	訪問看護ステーションの制度的な事業運営の流れや必要な手続き、看護との連携のあり方について学ぶ			
到達目標	訪問看護ステーションの制度と事業運営、必要な手続きを理解することができる			
講義内容	1.訪問看護ステーションの制度について 2.訪問看護ステーションの開設について 3.訪問看護ステーションの運営について 4.訪問看護ステーションに必要な帳票について 5.訪問看護ステーションに必要な報告、提出について			
備考				

No.	2203			
研修科目名	管理者としてどのように法令を遵守した運営をしていくか			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	WS
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	180分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	法令を遵守する運営のポイントを理解し業務への応用の仕方を学ぶ			
到達目標	法令を遵守する運営のポイントを理解することができる			
講義内容	1.事業運営に必要な法令遵守の視点 2.グループ討議 3.発表 4.法令遵守のポイントを業務に反映するためには			
備考				

No.	2204			
研修科目名	効率的な訪問事業運営のためのシステムの工夫			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	効率的な訪問事業運営のための様々なシステムの工夫を知り、業務改善の視点を学ぶ			
到達目標	効率的な訪問事業運営のための取り組みを理解し、業務改善をすることができる			
講義内容	1.市場調査について 2.新規顧客の発掘について 3.訪問体制の効率化について 4.実務管理の基本について			
備考				

No.	2205			
研修科目名	健康支援とフィジカルアセスメント			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	90分
講師例	訪問診療の経験がある医師			
概要	事業所における健康支援とフィジカルアセスメントスキルの向上及び体制作り			
到達目標	フィジカルアセスメントを正しく理解することができる フィジカルアセスメントを事業所で教育することができる			
講義内容	1.在宅要介護者の健康支援について 2.症状から分析するフィジカルアセスメント 3.見逃してはいけない症状について			
備考				

No.	2206			
研修科目名	急変時の対応と救命救急法1			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	90分
講師例	訪問事業に従事しており、救命救急法に精通しているもの			
概要	訪問時に想定される急変時の対応や事業所として必要な準備を学ぶ			
到達目標	急変時の対応・対処について理解することができる 事業所としての初動体制について理解し整備ができる			
講義内容	1.想定される急変の種類 2.急変時の対応について 3.初動、連絡体制について 4.事業所内での教育方法について 5.事業所内でのシステム&マニュアルの準備について			
備考				

No.	2207			
研修科目名	急変時の対応と救命救急法2			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	実技
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	90分
講師例	訪問事業に従事しており、救命救急法に精通しているもの			
概要	実技を通して、訪問時に想定される急変時の対応や事業所として必要な準備を学ぶ			
到達目標	急変時の対応・対処について理解することができる 事業所としての初動体制について理解し整備ができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 想定される急変の種類 2. 急変時の対応について 3. 初動、連絡体制について 4. 事業所内での教育方法について 5. 事業所内でのシステム&マニュアルの準備について 6. 救命救急法(心肺蘇生法、AEDの使用法、吸引法など)の実技 			
備考				

No.	2208			
研修科目名	医療依存度の高い対象者への訪問リハの実践と事業所としての対応方法			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	シンポジウム
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	180分
講師例	医療依存度の高い対象者に訪問経験のあるPT、OT、ST			
概要	医療依存度の高い対象者への訪問リハの管理者としてのマネジメント、事業所としての対応方法を学ぶ			
到達目標	医療依存度の高い対象者への実践を理解することができる 医療依存度の高い対象者へのサービス供給体制を整えることができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療依存度の高い対象者(難病、重度障害、末期など)について 2. 医療依存度の高い対象者の訪問リハ実践 3. 医療依存度の高い対象者へのサービス提供体制の課題 4. 医療依存度の高い対象者へのサービス提供体制のあり方 			
備考				

No.	2209			
研修科目名	事業所の課題解決と組織化			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	事業運営上の様々な課題をどう解決し、組織化を進めていくかを事業事例を通して学ぶ			
到達目標	事業運営上の様々な課題を理解することができる 事例を通して組織化を進める方法を理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.事業運営で生じる課題について 2.課題解決の方法について 3.システムの構築について 4.組織化の手順と方法について 5.事業事例の紹介 			
備考				

No.	2210			
研修科目名	管理者としての組織・システム作りを学ぶ			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	WS
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	180分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	組織作りやシステム作りの具体的な方法を学ぶ			
到達目標	組織作りやシステム作りの具体的な方法を理解することができる			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.組織作りの具体的方法について 2.システム作りの具体的方法について 3.グループ討議(体験の共有) 4.発表 			
備考				

No.	2211			
研修科目名	STEP3 予告			
研修会名	管理者養成研修会	STEP2	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	管理スキルアップ	研修時間	30分
講師例	事務局スタッフ			
概要	STEP3研修会の意味や内容を予告する			
到達目標	STEP3研修会を受講する			
講義内容	1.管理者養成研修会 STEP3 の意義 2.管理者養成研修会 STEP3 の内容説明			
備考				

訪問リハビリテーション
管理者養成研修会
STEP 3

シラバス

No.	2301			
研修科目名	経営的視点と事業計画の立て方①			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	経営管理に必要な専門知識や資料の読み方、部門事業計画の立て方及びチェックポイントを学ぶ			
到達目標	経営管理に必要な知識を理解できる 事業計画の作成方法について理解できる			
講義内容	1.経営管理に必要な知識について 2.経営管理に必要な資料とその読み方について 3.事業計画の見方について 4.事業計画の作成方法について			
備考				

No.	2302			
研修科目名	経営的視点と事業計画の立て方②			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	演習
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	事業計画の立て方を学び、実際に立ててみる			
到達目標	事業計画を作成することができる			
講義内容	1.事業計画の作成方法について 2.事業計画の作成手順 3.事業計画を作成			
備考				

No.	2303			
研修科目名	労務管理と就業規則			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	90分
講師例	社会保険労務士など			
概要	労務管理の基本と就業規則について学ぶ(事前予習あり)			
到達目標	労務管理の基本を理解することができる 就業規則について理解することができる			
講義内容	1.労務管理の基礎知識について 2.労務管理の基本的な考え方について 3.労務管理の手順について 4.就業規則の意義について 5.就業規則の作成方法について			
備考				

No.	2304			
研修科目名	職員の人事管理と健康管理			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	180分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	職員募集・採用、定期面接、健康管理、役割・配置、人事考課などを学ぶ			
到達目標	人事管理について理解することができる 職員の健康管理について理解し、取り組むことができる			
講義内容	1.人事管理の基礎について 2.人事管理の方法について 3.職員の健康管理の考え方について 4.職員の健康管理の方法について			
備考				

No.	2305			
研修科目名	訪問リハ財団が訪問リハ管理者に期待するもの			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	90分
講師例	訪問リハ振興財団役員			
概要	訪問リハ振興財団が訪問リハ管理者に期待するものを総括的に学ぶ			
到達目標	訪問リハ振興財団が目指す管理者像を理解することができる			
講義内容	1.訪問リハ振興財団の現状について 2.全国的な訪問リハの現状について 3.訪問リハのあるべき姿について 4.制度改革のための職能団体の果たす役割について 5.訪問リハ管理者に期待すること			
備考				

No.	2306			
研修科目名	事業所運営上のリスク・運営トラブルの管理の仕方			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	180分
講師例	保険会社職員など			
概要	事業を行ううえでの様々なリスクを知り、具体的な運営トラブルに対する対応方法を学ぶ			
到達目標	事業所運営のリスクについて理解することができる 運営トラブルの対応方法について理解することができる			
講義内容	1.基本的な事業リスクについて 2.事業リスクがもたらす影響について 3.具体的なトラブルの事例について 4.具体的なトラブル事例への対応方法について			
備考				

No.	2307			
研修科目名	管理者として事業リスクをどうコントロールしていくか			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	WS
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	180分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	様々な事業リスクに対する具体的対応方法を学ぶ			
到達目標	事業リスクへの対応方法を理解することができる			
講義内容	1.様々な事業リスクについて討議 2.事業リスクをコントロールする方法について提案 3.発表			
備考				

No.	2308			
研修科目名	当事者・家族からみた地域リハビリテーションのあり方			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	180分
講師例	地域リハビリテーションの実践者			
概要	当事者・家族からみた地域リハビリテーション、人としての復権のあり方を学ぶ			
到達目標	当事者・家族の視点や想いを理解し、事業に反映することができる			
講義内容	1.当事者・家族の心理状態について 2.高齢者・障害者の自立した地域生活について 3.各国の地域リハビリテーションのあり方について 4.社会参加を支援することの重要性について			
備考				

No.	2309			
研修科目名	認定テスト			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	筆記テスト
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	60分
講師例	事務局スタッフ			
概要	管理者としての資質をテストの実施を通して確認する			
到達目標	認定テストの実施と合格			
講義内容	1.筆記テストの実施			
備考				

No.	2310			
研修科目名	訪問リハ事業所の運営のあり方			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	WS
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	180分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	管理者としてのあり方や事業所運営のあり方をより具体的に理解し今後活かせる			
到達目標	管理者としてのあり方を理解することができる 事業所運営のあり方を理解することができる			
講義内容	1.事業所運営について 2.スタッフの管理について 3.利用者管理について 4.経営管理について 5.1～4を討議 6.発表			
備考				

No.	2311			
研修科目名	管理者としての志を立てる！			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	演習
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	90分
講師例	訪問リハ振興財団 研修班			
概要	STEP1～3を通して、管理者としての自分の志を立て、グループや全体で共有する			
到達目標	管理者としての志を立てることができる			
講義内容	1.管理者としての志について 2.管理者として、事業所としての目標について 3.求められる管理者像について			
備考				

No.	2312			
研修科目名	管理者研修会 予告			
研修会名	管理者養成研修会	STEP3	研修形態	講義
研修種別	管理研修科目	事業運営管理入門	研修時間	30分
講師例	訪問リハ振興財団 研修班			
概要	管理者研修会の意味や内容を予告する			
到達目標	管理者研修会に参加する			
講義内容	1.管理者研修会の意義 2.管理者研修会の内容説明			
備考				

訪問リハビリテーション 管理者研修会

シラバス

No.	3101			
研修科目名	訪問リハ振興財団の活動と地域における訪問リハに期待する事			
研修会名	管理者研修会	-	研修形態	講義
研修種別	上級管理研修科目	地域リハコーディネーター入門	研修時間	90分
講師例	訪問リハ振興財団役員			
概要	訪問リハ振興財団の活動と地域における訪問リハに期待する事、地域包括ケアにおける我々の役割を学ぶ			
到達目標	地域で活躍する訪問リハビリテーション従事者が何を期待されているか理解できる 地域包括ケアシステムでの訪問リハビリテーション従事者の役割を理解できる			
講義内容	1.訪問リハ振興財団のトピックスについて 2.地域における訪問リハビリテーション従事者の役割について			
備考				

No.	3102			
研修科目名	訪問事業所の管理者としての実践報告			
研修会名	管理者研修会	-	研修形態	講義
研修種別	上級管理研修科目	地域リハコーディネーター入門	研修時間	90分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	訪問リハ事業所及び訪問看護ステーションの管理者の実践報告から学ぶ			
到達目標	訪問事業所の管理者としての実践を理解することができる			
講義内容	1.サービス管理について 2.スタッフ管理について 3.経営者との関係性について 4.管理者としての自己管理について			
備考				

No.	3103			
研修科目名	管理者として運営管理で困っている事			
研修会名	管理者研修会	-	研修形態	WS
研修種別	上級管理研修科目	地域リハコーディネーター入門	研修時間	180分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	管理者として管理運営に携わり困っていることを共有し、整理分類する			
到達目標	管理者として管理運営に携わり困っていることを共有し、整理分類することができる			
講義内容	1.管理運営で困っていることについて意見交換 2.管理運営で困っていることを整理分類 3.発表			
備考				

No.	3104			
研修科目名	ナイトセミナー			
研修会名	管理者研修会	-	研修形態	演習
研修種別	上級管理研修科目	地域リハコーディネーター入門	研修時間	120分
講師例	訪問リハ・訪問看護事業所の管理者もしくはその経験者			
概要	参加者同士のネットワーク作りと情報交換を行う			
到達目標	参加者とのネットワークができる 参加者との情報交換ができる			
講義内容	1.参加者同士のネットワーク構築について 2.参加者同士の情報交換 3.管理者としての語らい			
備考				

No.	3105			
研修科目名	世界の訪問リハ事情について			
研修会名	管理者研修会	-	研修形態	講義
研修種別	上級管理研修科目	地域リハコーディネーター入門	研修時間	90分
講師例	各国で訪問リハの経験がある方など			
概要	世界の訪問リハ事情について学び、日本のあり方を考える			
到達目標	世界の訪問リハ事情について理解することができる			
講義内容	1.世界の訪問リハについて 2.世界の訪問リハに関する制度について 3.途上国の地域リハビリテーションのあり方について 4.訪問リハ先進国の学ぶべきポイントについて			
備考				

No.	3106			
研修科目名	講師としてのプレゼンテーションスキル			
研修会名	管理者研修会	-	研修形態	講義
研修種別	上級管理研修科目	地域リハコーディネーター入門	研修時間	90分
講師例	教授法に精通した方			
概要	研修会講師のプレゼンテーションスキルを学ぶ、訪問リハ勉強会、ケアマネ勉強会、他職種勉強会			
到達目標	研修会講師に必要なスキルを理解することができる			
講義内容	1.研修会講師に必要なスキルについて 2.教授法のポイントについて 3.話し方、説明の方法について 4.資料作成のポイントについて 5.質問への答え方			
備考				

No.	3107			
研修科目名	訪問リハ実務研修会の企画・運営の実際			
研修会名	管理者研修会	-	研修形態	シンポジウム
研修種別	上級管理研修科目	地域リハコーディネーター入門	研修時間	180分
講師例	訪問リハ振興財団 研修班			
概要	訪問リハ実務研修会の企画・運営について、2つの地域の事例を通して学ぶ			
到達目標	訪問リハ実務者研修会の企画・運営に携わることができる			
講義内容	1.実務者研修会の企画について 2.実務者研修会の運営について 3.実務者研修会の実例 4.実務者研修会以外の養成、育成の方法について			
備考				

一第6章一 実務者研修会の受講証の発行について

前述の通り、各都道府県士会およびそれに準ずる団体が主催する実務者研修会（それに相当する研修会も含む）の受講者には、訪問リハビリテーション振興委員会が発行する受講証¹⁾を授与する。

受講証の発行作業は各都道府県士会に一任しており、下記発行手順に従い手続きを遂行いただきたい。

1. 受講証の発行手順

- 1) 受講証フォーマットに職種、氏名、受講番号を記入の上、印刷発行する。
- 2) 受講番号は都道府県番号2桁と通し番号4桁をあわせた6桁の番号で表示する。
- 3) 次年度以降は通し番号の続きから発行する。
- 4) 都合により欠番が生じた場合は、作業が煩雑となる恐れがあるため空番扱いでも構わない。

(都道府県番号) + (通し番号)

【例】北海道の場合： 01 + 0001～9999 ⇒ 010001～019999

沖縄の場合： 47 + 0001～9999 ⇒ 470001～479999

01	北海道	11	埼玉県	21	岐阜県	31	鳥取県	41	佐賀県
02	青森県	12	千葉県	22	静岡県	32	島根県	42	長崎県
03	岩手県	13	東京都	23	愛知県	33	岡山県	43	熊本県
04	宮城県	14	神奈川	24	三重県	34	広島県	44	大分県
05	秋田県	15	新潟県	25	滋賀県	35	山口県	45	宮崎県
06	山形県	16	富山県	26	京都府	36	徳島県	46	鹿児島
07	福島県	17	石川県	27	大阪府	37	香川県	47	沖縄県
08	茨城県	18	福井県	28	兵庫県	38	愛媛県		
09	栃木県	19	山梨県	29	奈良県	39	高知県		
10	群馬県	20	長野県	30	和歌山	40	福岡県		

注) フォーマットの取り扱いには十分留意し、他の用途は厳禁とする。

注) 受講者名簿については各都道府県主催者の責任において管理保存する。

1) 受講証・・・旧「修了証」。実務者研修会は、介護保険・医療保険制度の特性や地域の実情に合わせた内容を盛り込むため毎年異なるものとなる。そこで平成26年度より「修了証」ではなく、各年度の研修会を受講したものとして「受講証」と改める。訪問リハビリテーション従事者には知識、技術の最新を学ぶ機会として繰り返しの参加を望む。

2. 振興財団への報告

訪問リハビリテーション振興財団事務局から地域リーダー宛に平成 25 年 10 月 30 日付でメール配信された 1) 受講者名簿フォーマット 2) 研修会実施報告書フォーマット を参照。

実務者研修会を実施後は、「受講者名簿」「研修会実施報告書」(資料⑤)を作成後、速やかに振興財団事務局宛にメールにて送付する。

3. 受講証の紛失時の対応について

- 原則、受講証の再発行は行わない。
- 研修会受講確認後、受講証明書の発行を行う。
- ホームページに申請書を掲載、インターネット環境が無い場合はファックスかメールにて振興財団より申請書を送信。
- 依頼者は、返信用封筒を同封の上、振興財団に依頼する。
- 上記対応は平成 26 年 4 月 1 日から実施する。

各種フォーマットの請求／研修会の報告／受講証明書の発行依頼

《 窓 口 》

一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団

事務局 横山 紀子

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-8-5

TEL : 03-6804-1421 FAX : 03-5414-7913

EMAIL : n - yokoyama@japanpt.or.jp

一第7章一 実務者研修会の履修に関する緩和対応

1. 背景

超高齢社会に対応して地域包括ケアシステムの構築が急務とされる昨今、在宅支援に有用な人的資源の整備を進めるうえで訪問リハビリテーションの従事者数の増加は以降も強化していかなければならない。

平成22年に開催された地域リーダー会議（当時「地域リーダー育成研修会」）において、実務者研修会の開催を依頼してから4年が経過し、全国の訪問リハビリテーション従事者には質の向上を促すことが出来たが、更なる質の向上のためには1）カリキュラム確立によるシステマティックな研修会の開催、2）受講者のリピート率を高める、3）新規受講者を開拓することが必須と考える。まずは2）3）への対応として、実務者研修会の履修方法に関する緩和策を下記に提案し、その概略図を図3に示す。実際の運用に関しては各都道府県の判断に一任するので検討いただきたい。

2. 対象 ※図3参照

- A) すべての受講者
- B) 「遅刻」「早退」「一部受講」によって必要時間に達しなかった受講者
- C) 上述B) が引越等の事由により所属の都道府県士会を変更した場合

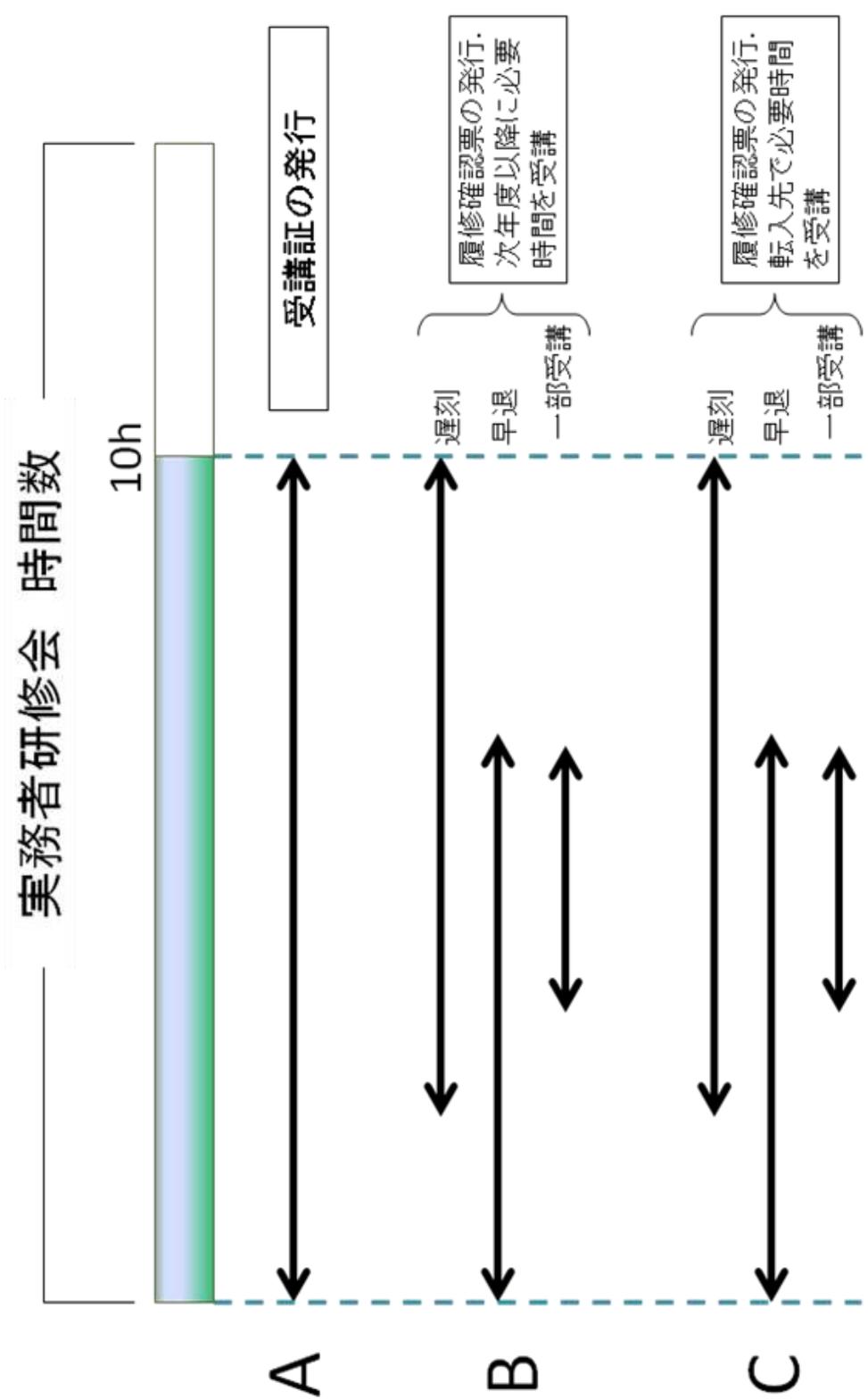
3. 対応 ※図3参照

実務者研修会の開催要件の一つとして研修会の時間数が10時間以上とあるため、A)には10時間の受講を以って受講証の発行を容認する。特に1回の研修会が10時間以上の場合、B)には次年度以降の研修会受講で残りの時間数を満たせば受講証の発行を容認する。また、C)は転入先の対応をあらかじめ確認した上で、履修確認票²⁾を研修会開催窓口に提示し必要時間を受講する。当該士会およびそれに準ずる団体は転入者への対応をあらかじめ決定した上で、受講証を発行する。

4. 対応期間

緩和対応は平成26年4月1日から有効とし、特段の事由が発生しない限り対応を継続するものとする。

2) 履修確認票：履修状況を確認するために「研修日時」「時間数」「講義名」「講師名」などを記載したもの。各都道府県士会およびそれに準ずる団体が発行するが、受講者が管理することを原則とし、紛失した場合の再発行は極力控える。



各都道府県士会および準ずる団体による判断に一任

図3 実務者研修会の緩和対応

－第8章－ 資 料

資料① 受講証

資料② 受講証明書

資料③ 履修確認票

資料④ アンケート用紙

資料⑤ 研修会実施報告書

資料⑥ 災害・緊急時の研修開催の判断

資料⑦ 3協会と訪問リハビリテーション振興財団の関係図

資料①
受講証

平成 年度
訪問リハビリテーション実務者研修会
受講証

職 種：○○療法士
○ ○ ○ ○ 殿

貴殿は、公益社団法人日本理学療法士協会・一般社団法人日本作業療法士協会・一般社団法人日本言語聴覚士協会が認める訪問リハビリテーション実務者研修会を受講したことを証明いたします

受講番号 ○○○○○○

年 月 日

公益社団法人	日本理学療法士協会	会 長	半田	一登
一般社団法人	日本作業療法士協会	会 長	中村	春基
一般社団法人	日本言語聴覚士協会	会 長	深浦	順一

訪問リハビリテーション振興委員会



資料②
受講証明書

受講証明書

職 種：○○○○士

○○ ○○ 殿

受講内容

研修会名：平成 年度 実務者研修会

開催日：平成 年 月 日～ 月 日

受講番号 340133

上記研修会を受講したことを証明する。

平成 26 年 1 月 15 日

※本証明書は、受講証を紛失したために再証明を必要とする者に対して発行するものであり、それ以外何らの機能を持つものではありません。

公益社団法人 日本理学療法士協会 会長 半田 一登

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長 中村 春基

一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会長 深浦 順一

訪問リハビリテーション振興委員会



資料③
履修確認票

資料④

アンケート用紙

※実務者研修会のアンケート書式。本書式を推奨するが、各都道府県士会に既存の書式の使用を妨げるものではない。

平成

年度

受講者アンケート

1. 属性 ご自身の該当する箇所にし点をご記入ください

年齢	<input type="checkbox"/>	20歳代	<input type="checkbox"/>	30歳代	<input type="checkbox"/>	40歳代	<input type="checkbox"/>	50歳代以上
訪問リハの経験年数	<input type="checkbox"/>	未経験	<input type="checkbox"/>	5年未満	<input type="checkbox"/>	10年未満	<input type="checkbox"/>	10年以上
職種	<input type="checkbox"/>	理学療法士	<input type="checkbox"/>	作業療法士	<input type="checkbox"/>	言語聴覚士		
所属施設	<input type="checkbox"/>	病院	<input type="checkbox"/>	診療所	<input type="checkbox"/>	老健	<input type="checkbox"/>	訪問看護ステーション

2. 研修会の評価 各講義に対する設問に、下記評価基準を参照に数字でお答えください

評価基準

4. かなりそう思う 3. そう思う 2. あまりそう思わない 1. そう思わない

講義名/講師名	設問	研修内容は理解できた	研修の受講によって自分の知識や能力の向上に役立った	研修で得た知識は実務に活かせると思う

3. 受講を通してあなたの職場を振り返り、気づかされた問題や課題がありましたら、ご記入ください。（自由記載）

4. 今後の研修会について、希望する研修内容、方法等ご意見をお聞かせください。（自由記載）

アンケートのご協力ありがとうございました。

資料⑤

研修会実施報告書

研 修 会 実 施 報 告 書

書類提出日 平成 年 月 日

担当者

主催（開催都道府県）	
共催・協力団体等	
日 時	平成 年 月 日 ～ 月 日（ 日間）
会 場	（〒 ）
参加者数	全体参加者数（ 名）、受講証発行人数（ 名） 【参加者内訳】（PT： 名、OT： 名、ST： 名） （訪問リハ従事者： 名、経験者： 名、未経験者 名）
収 支 予 算	収入： 円（参加費 円） 支出： 円
プログラム（内容）	
講 師	
事業評価（良かった点）	
事業評価（課題点）	
総 括 （コメント等）	

資料⑥

災害・緊急時の研修開催の判断

※管理者養成研修会および管理者研修会における、地震や津波などの災害による研修会の開催の判断基準を作成した。研修会申込者には本判断基準を参考に出欠の判断、問合せや事前確認等の速やかな行動をお願いしたい。

また、各都道府県における実務者研修会の開催においても本判断基準を参考に参加者の安全の確保にご尽力いただきたい。

研修会開催における災害・緊急時の対応措置について

◆災害・緊急時の指示命令系統

①研修会運営責任者（研修班長）→②研修班長以外の当日運営責任者（研修班員）→③事務局（訪問リハビリテーション振興財団）→④事務局代行（合同会社 gene）

以上の順（図 1 参照）で基本的な指示命令の伝達がなされるが、即時対応が求められる状況やトップダウンの指示命令が必要な場合には、柔軟に連携を取って事態収拾を図るものとする。

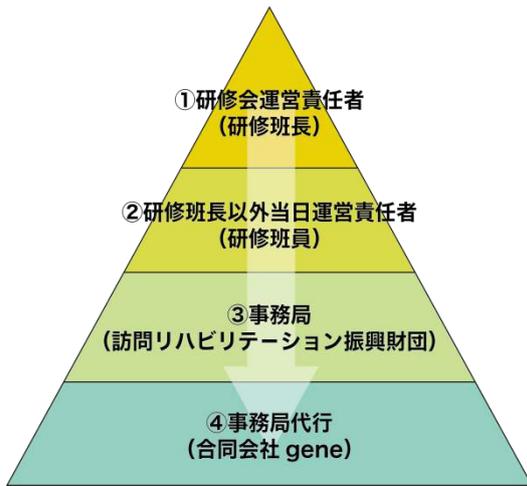


図 1

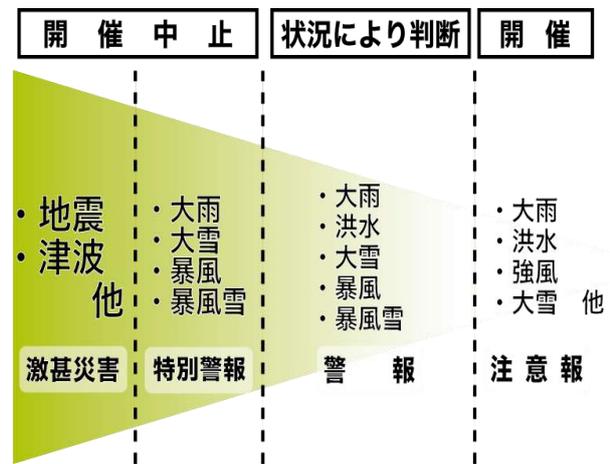


図 2

◆天災事由の到来が予測される場合の対応措置～研修会開催中止の基準～

注意報レベルによる研修会中止の判断は基本的には行いませんが、当日の会場エリアで重大な災害の危険性が著しく高いと予測される場合（警報などが前日から既に発表されており、当日コンディションの回復が見込めないと予想される時）は研修会運営責任者の判断指示のもと、受講者へ事前の注意喚起（ホームページ及びメール告知）を研修会の前日（午前中迄）に行い、中止決定とその後の対応措置を事務局代行から伝達する。また、会場手配の都合上、中止確定の研修会に関して年度内での延期開催は行いません。

（図 2 参照）

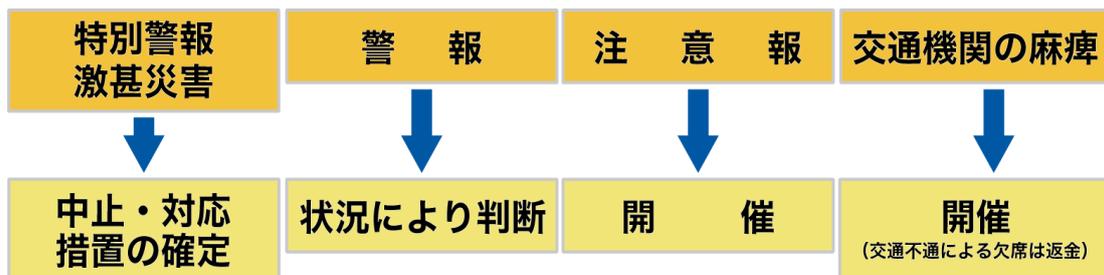


図 3

◆交通機関の影響によるキャンセル

受講料は基本的には開催前一週間を経過した時点で返金しないが、自己都合の範囲外による理由が認められる場合は返金対応(返金時手数料等は差引※以下同様)を行います。交通・宿泊手配のキャンセルに伴い生じる受講者の実質負担分は補償できません。

(図3参照)



図4

◆その他自己都合の範囲外として認められるキャンセル

対象としては、本人(身内)の出産、不幸、入院を伴う不慮の傷病・疾病、インフルエンザなどの予防対策が必要な感染症の発症が該当しますが、キャンセル連絡(可能性を含めて)自体が会期中に確認出来ない場合は返金対応を行わない。

また、受講料以外(懇親会・昼食など)の返金は可能な範囲に限定して対応するものの基本的にはキャンセル期限を過ぎた後の返金対応は行わない。(図4参照)

◆当日の会場内における災害・緊急時の対応措置

会場側の防災担当責任者に内容確認のうえ、当日の実質的な研修会運営責任者へ直ちに状況報告を行い、指示命令系統に沿って必要なアナウンス・避難誘導などを行います。また、その状況に応じて研修会の運営・進行が難しい場合には、即時中止の判断を行うこともあります。その代替開催に関しては基本的に行わない。講師不着や進行に支障をきたす突発事由が生じた時も同様に進行時間の変更やその他対応を取り決めて必要なアナウンスを適時行えるように準備運営する。

◆諸々の不明点に関する問い合わせ先

訪問リハビリテーション管理者養成研修会 STEP1~3 及び管理者研修会に関する内容は事務局代行(合同会社 gene)が一括して受け付けた後に適時対応を行います。

連絡先情報

合同会社 gene (ホームページ: <http://www.gene-llc.jp/>)

〒462-0059 愛知県名古屋市北区駒止町2丁目52番地 リベルテ黒川1階A号室

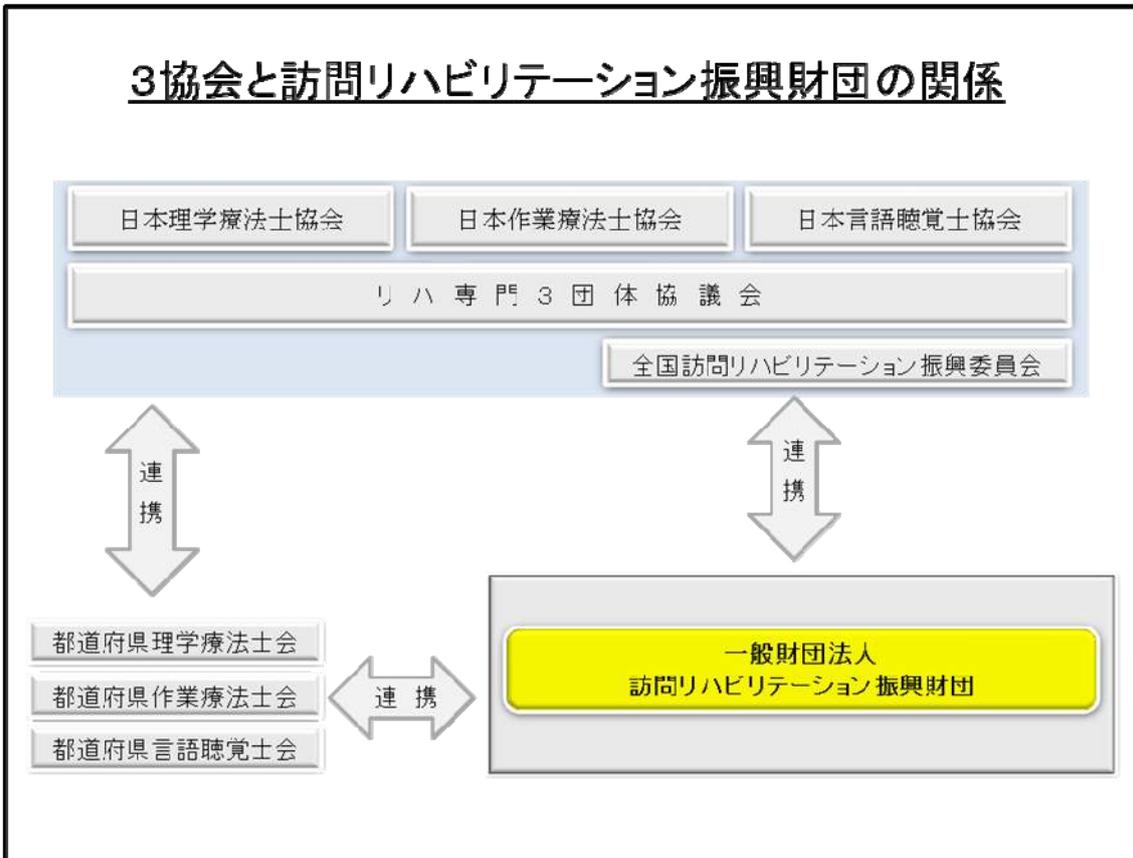
TEL 052-911-2800 FAX 052-911-2803 E-mail jimukyokudaikou@gene-llc.jp

※運営指針の見直しや改定は必要に応じて都度行っていくものとする※

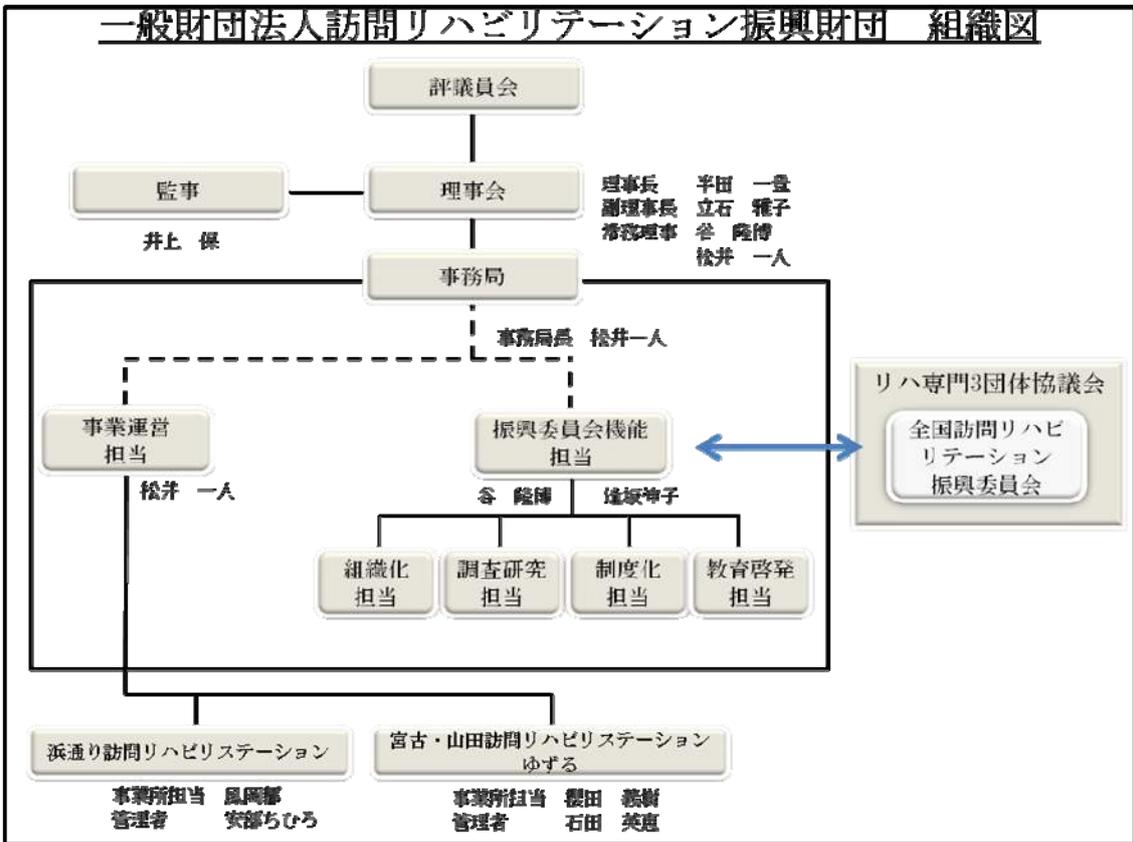
資料⑦

3 協会と訪問リハビリテーション 振興財団の関係図

3協会と訪問リハビリテーション振興財団の関係



一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 組織図



訪問リハビリテーション従事者のための
人材育成ガイドライン

ガイドライン作成担当（五十音順）

逢坂 伸子 / 内田 正剛 / 永来 努 / 北澤 伸

木村 修介 / 吉良 健司 / 武内 大輔 / 露木 昭彰 / 深井 伸吾

2014年 5月 発行

発行者・著作：公益社団法人 日本理学療法士協会
一般社団法人 日本作業療法士協会
一般社団法人 日本言語聴覚士協会

編集：一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-8-5
TEL：03-6804-1421 FAX：03-5414-7913
